令和４年度
第12号

年報

加西市立総合教育センター

写真提供：一般社団法人加西市観光協会

は　じ　め　に

社会の変化が加速度を増す中で、３年間のコロナ禍は、我々の生活や社会活動を大きく変化させました。予測困難な時代において、進化論の「生き残るのは変化できる者」が現実となり、日々の生活の中で、大人も子どもも「挑戦」「協働」「創造」が求められています。

本年報は、加西市の教育基本理念『郷土を愛し　豊かに未来を拓く　人づくり』の実現を目指し、当センターが令和４年度に取り組んできた事業等を振り返り、まとめ、検証し、次年度の更なる充実に資することを願って刊行するものです。

当センターは、平成 23 年４月に加西市教育研修所と加西市青少年センターを統合し本年度で 12 年目を迎えました。本市における教育推進の中核施設として、研修講座の企画・運営、今日的な教育課題の研究と喫緊の課題への対応、小中連携教育の推進、多様化・複雑化に対応した発達支援、ふれあいホームの運営等の不登校対策、保護者・教職員の支援となる教育相談、各種関係機関等と連携した生徒指導、スクールソーシャルワーカー（ＳＳW）・地域福祉等関係機関と連携した家庭支援、地域と学校の連携・協働体制推進事業、青少年健全育成に係る活動支援等、幅広い事業を実施しています。

本年度は、「子ども・保護者（地域）・教職員（学校）に必要とされ、力となること」を合言葉に、持続可能な取組を目指して、事業を見直し、新たな方法等を探って参りました。教育推進分野においては、世代交代の進む学校現場の状況や、新しい教育の展開を受け、教職員の資質能力向上を目指しました。キャリアステージに応じた講座、学習指導要領・ＩＣＴ利活用促進等の新しい教育への講座、退職校長や指導主事を講師としたＯＪＴ的教師力向上講座、授業改善や生徒指導・発達支援といった喫緊の教育課題の講座等、教員や学校現場のニーズに応える研修講座を実施しました。また、育成支援分野においては、指導主事、警察ＯＢ、校長ＯＢ、ＳＳW、臨床心理士、臨床発達心理士、弁護士等による「学校サポートチーム」を、積極的に機能させ、よりニーズに応えることができました。発達支援では、児童生徒の指導や環境調整を含めた学級経営の助言、生徒指導に関する未然防止・早期対応、教職員の指導力向上に向けた研修等の学校支援に努めました。不登校や虐待事案等に対しては、ふれあいホームの充実を図り、ＳＳWがこれまで以上に学校と連携し、家庭と学校と地域福祉課等関係機関を繋ぎ、子どもや家庭に対し継続して支援できる体制を整えました。

当センターは今後も、時代の変化に教職員が柔軟性をもって積極的に対応し、時代を超えても変わらない価値ある「不易」の部分を堅持しながら、学校・家庭・地域のニーズに応え、より強力に支援できるよう努めて参ります。

結びに、これまで心強いご支援とご指導をいただきました関係者の皆様、そして、講師先生の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。今後とも当センターの事業につきまして、より一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和５年３月

加西市立総合教育センター

所長　　工　藤　憲　人

目　　次

Ⅰ　令和４年度事業概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　教育推進

１　研修講座　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５

２　自主研究活動グループ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

３　ＩＣＴ教育　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12

４　小中連携教育　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14

５　図書コーナー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18

６　学校・家庭・地域の連携協力・・・・・・・・・・・・・・・・・　21

Ⅲ　育成支援

１　健全育成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　25

２　教育支援センター「ふれあいホーム」　・・・・・・・・・・・・　36

３　発達支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39

４　教育相談　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　44

５　青少年育成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46

Ⅳ　参考資料

１　研修講座報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49

２　インターネットリーフレット　・・・・・・・・・・・・・・・・　59

Ⅰ　令和４年度事業概要

１　本市の「教育の重点」と事業の関連性

本市では、第３期加西教育プラン（加西市教育振興基本計画）(令和３年５月策定)に基づき、令和４年度「教育の重点」を作成し教育の一層の充実と振興を図った。その「教育の重点」の実現を図るためにセンターとして、下記の取組を行った。

【基本方針】主体的に自立しようとする子どもの教育の充実

学ぶ喜びを知り、自ら学ぶ意欲と確かな力を育成します

- 加西っ子の学びセミナーの開催
- ＳＴＥＡＭ教育の推進
- ＩＣＴ教育の推進
- 令和３年度版「家庭学習ハンドブック」の活用推進
- 加西っ子の学習習慣「かきくけこ」の配布

児童生徒の成長を支える学びの場を充実します

- 教職員の資質向上・指導力向上に向けた研修講座の開設
  - キャリアステージに応じた講座
  - 教科指導における授業力向上、授業改善講座
  - 学級経営、生徒指導、不登校対策の充実に向けた講座
  - 特別支援教育研修講座、児童生徒支援講座
  - 著名な講師を招聘した研修講座
  - 身近な教職員による教育財産の伝承講座（ＯＪＴ的教師力向上講座）
  - 校内研修との連携
- 自主研究活動グループに対する支援
- 教育図書の拡充と移動図書館の実施
- 教育関係資料等の収集

児童生徒理解を基盤とした生徒指導体制を推進します

- 道徳授業実践講座の開催
- 生徒指導担当者との連携（随時及び「学・警・総連絡会兼いじめ対応ＮＷ会議」）
- 不登校対応マニュアルの広報・研修活用等
- 地域福祉課等と連携したひきこもり予防に係るすまいるリンクＮＷ連絡会（毎月１回）
- ＳＳＷによる各校生徒指導委員会、不登校対策委員会との連携
- 「市いじめ防止基本方針」に基づくいじめの未然防止等の取組の推進
- いじめ対応マニュアルの周知と活用
- 市子どもいじめ問題対策審議会の開催
- いじめ防止運動作品募集事業、作品展の実施
- いじめ防止啓発チラシ、健全育成カレンダー・クリアファイルの作成・配布
- インターネット等の使用についてのアンケート調査の実施、啓発リーフレット配布
- 発達検査、発達相談、発達支援プログラム等の実施
- 発達支援プログラム保護者研修会、保護者相談会等の実施

・ 特別な支援が必要な幼児児童生徒への理解を深める特別支援教育研修講座の開催
・ 教育相談（電話･面談）の実施
・ 市内相談機関連絡会の開催

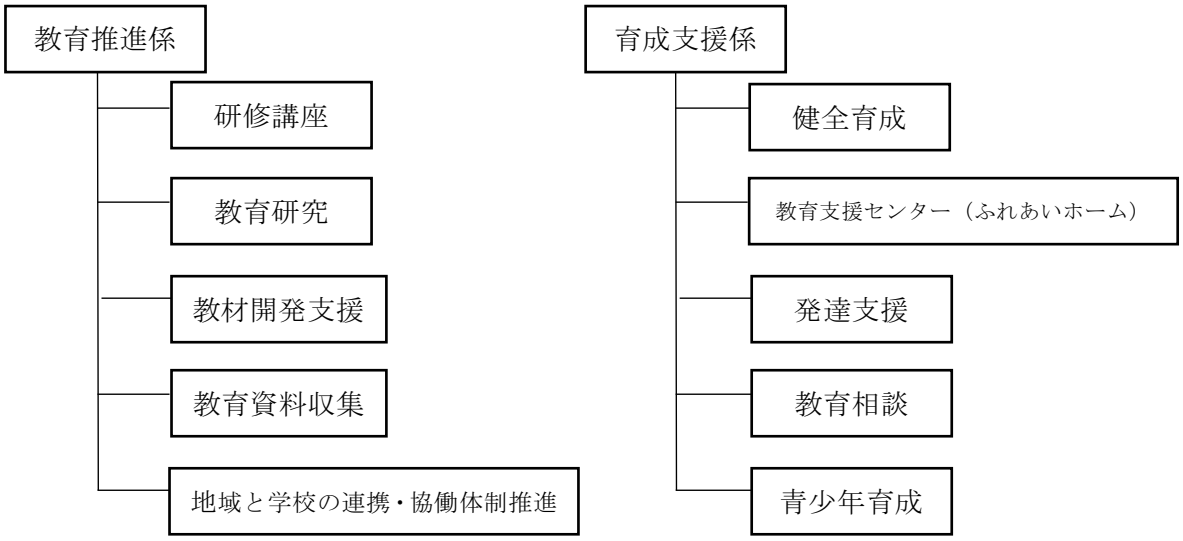
小中連携教育を充実します
・ 小中連携教育推進委員会の開催
・ 小中連携アンケートによる取組の分析
・ 小・中・特別支援学校生徒指導担当者による学校・警察・総合教育センター連絡会（学・警・総）での中学校区生徒指導連絡会
・ 幼児教育研修講座、幼小連携講座の開催

地域とともにある学校づくりを推進します
・ 家庭の教育力の向上をめざした「すこやか”ねひめっこ”は家庭から」の支援
・ コミュニティ・スクール導入のための環境整備
・ 地域学校協働活動の推進
・ 青少年補導委員連絡協議会、青少年健全育成連絡協議会、連合ＰＴＡ、子ども会育成連絡協議会、青少年団体連絡協議会、青年連絡会えんどれす、青少年健全育成に係る関係団体の活動に関する支援
・ 青少年健全育成関係団体連絡会（青少年補導委員連絡協議会･青少年健全育成連絡協議会･連合ＰＴＡ･防犯協会）主催･総合教育センター共催の「ネットトラブルから子どもを守る市民研修会」及び青少年健全育成キャンペーンの実施

２　事業概要

（１）組織と事業内容

センターは、下記の組織図のとおり『教育推進係』と『育成支援係』の２係を設け、事業を体系化して実施している。



（２）センター重点事業

昨年度のセンター事業を検証し、本年度は下記の５つを重点事業として取り組んだ。

ア　教師の指導力向上（研修講座の充実・研修機会の拡充）

“教職員や現場のニーズに応える実効性のある研修講座”を目指し、昨年度末のアンケート結果を参考に、キャリアステージに応じた講座、新学習指導要領・ＩＣＴ利活用促進等の新しい教育に向けた講座、退職校長や指導主事を講師とした教師力向上講座、授業改善や生徒指導・発達支援といった喫緊の教育課題に向けた講座、校内研修・教科担当者会と連携した講座等、31 コース・46 講座を計画・実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策と新しい研修講座のあり方として、集合型研修、オンライン型研修、ハイブリッド型研修をさらに充実させ実施した。

教職員にとって、センター所蔵図書をよりニーズに合った実用的なものとできるよう、購入希望図書調査を行い、本年度は 234 冊の新規図書を購入した。また、教職員がより利用できるように、長期休業日等を活用した「移動図書館」を拡充した。

イ 小中連携教育の推進

新学習指導要領に基づき、９年間を見通した各教科の小中連携指導シートを活用し、小中学校教員が学びの連続性というテーマで学習面からの連携教育を推進した。また小中連携アンケートを実施し、中学校進学前後において子どもの学習面、生活面、部活動面での気持ちの変容を５ヶ年分にわたって集約、分析を試みた。

ウ 生徒指導（いじめ防止の取組の推進・ネットトラブル等への対応）

「加西市子どもいじめ問題対策審議会」において、年々複雑化し対応が難しくなっているＳＮＳ等に関係する事案を含めた、いじめ防止と早期発見・組織的対応について協議した。また、いじめ対応ネットワーク会議において、具体的ないじめ事例をもとに指導の検証を行うなど、いじめ見逃しゼロを目指した実践的な研修を行った。また、いじめ防止啓発への継続した取組として、いじめ防止運動作品展の実施、いじめ防止啓発チラシや健全育成カレンダー、ファイルの作成、非行防止・健全育成キャンペーンでの配布等を行った。

エ 不登校に関する未然防止対策と支援の推進

「ふれあいホーム（教育支援センター)」において、体験入学や校外活動等を通し、個々の状況や特性に応じた学校復帰や進学に向けて計画的な指導を行った。また、ＳＳＷや発達支援アドバイザーが各校生徒指導委員会、不登校対策委員会等に出席し、学校やＳＣと情報共有・連携を図るなど、学校サポートチームとしての役割を強化した。さらに「すまいるりんくネットワーク連絡会」により、不登校児童生徒について情報共有やアセスメント等を行い、長期的な展望のもとにそれぞれの専門分野の関わりで、義務教育終了後のひきこもり予防の推進に努めた。

オ 児童生徒の特性や状況にあった発達支援の推進

発達支援アドバイザーによる発達検査や発達に関する教育相談を実施し、児童生徒のソーシャルスキルや保護者に対して家庭での支援方法の助言を行った。また、発達支援アドバイザーが学校訪問をし、児童生徒のアセスメントや情報共有を行い、教員に対し支援方法や学校環境調整の助言を行った。「発達支援プログラム」では、小学生対象に個々の特性に応じたトレーニングを計画、実施した。学校や保護者との連絡会や面談を通して、情報共有や支援方法について確認するとともに、講師を招聘してペアレントトレーニング等の保護者研修も実施して学校・保護者のニーズや悩みに応えた。

（３）総合教育センター運営委員会

センター運営委員会は、センター条例施行規則に基づいて設置しており、委員は７名で構成している。本年度は下記のとおり２回の委員会を開催した。

回数	日　　時	場所
第１回	令和４年７月 13 日（水）　15：00　～　16：30	センター
第２回	令和５年３月 13 日（月）　15：00　～　16：30	センター

第１回の委員会では、事業概要について説明するとともに、本年度重点事業と位置づけた事業内容や昨年度の課題を踏まえた取組等について説明し、意見をいただいた。

第２回の委員会では、本年度の事業報告と成果・課題等について説明し、来年度に向けた事業等について意見をいただいた。

委員会においては、各委員からの要望や様々な視点からの率直な意見をいただき、各事業についての点検に加え、今後の取組について多くの示唆を得ることができた。

（４）来年度のセンター重点事業

本年度の事業を検証し、来年度は次の事業を「重点事業」と位置づけ、更に充実した事業を展開し、センター機能を高めたい。

ア 教育推進

- 研修講座の更なる充実
  - 専門性と実践的指導力の向上
  - ニーズに応じた研修講座（新しい教育、喫緊の課題、ＯＪＴ研修）
  - キャリアステージに応じた教職員研修
  - 加西ＳＴＥＡＭ教育の推進
- ＩＣＴ（Chromebook 等）を活用した授業改善の支援
- 小中連携教育（幼小連携・小小連携を含む）の推進
- 地域と学校の連携・協働体制推進事業の充実
  - 学校運営協議会設置の推進

イ　育成支援

- いじめ防止基本方針、条例に基づく取組の推進
- インターネット等使用に関する家庭への啓発（保護者研修の推進）
- 生徒指導に係る教職員の研修（相談、学・警・総、いじめ対応ＮＷ）
- 新たな不登校支援体制の構築（校内支援体制、ふれあいホーム）
- 虐待やひきこもり等の予防と家庭支援（ＳＳＷ、地域福祉との連携）
- 発達支援に係る早期支援（プログラムトレーニングの見直し）
- 発達支援に係る教職員の研修（相談、スキルアップ）

Ⅱ　教育推進

教育推進係は、研修講座の開催や教育研究等、次の５つの事業を推進した。

① 教職員の研修に関すること
② 教育研究に関すること
③ 教材開発等の支援に関すること
④ 教育資料の収集及び提供に関すること
⑤ 地域と学校の連携・協働に関すること

１　研修講座

教職員の資質・能力等の向上をねらいとして、本年度も、

Ａ 対象となる教職員が受講する講座
Ｂ 対象となる教職員と希望する教職員が受講する講座
Ｃ 希望する教職員が受講する講座
Ｄ 特別講座

の４種類を設け、46 講座を開設した。

昨年度末に実施した「研修講座に係る教職員アンケート」結果を十分に考慮して計画した。内容としては、教職員のキャリアステージや専門分野に応じた講座、ＳＴＥＡＭ教育・ＩＣＴ利活用促進等の新しい教育に向けた講座、教師力向上講座、授業改善や発達支援といった喫緊の教育課題解決に向けた講座、校内研修・教科担当者会とコラボレーションした講座等である。

また、実施にあたっては、小・中・特別支援学校教職員はもちろん、公立だけでなく私立を含めたこども園職員等も参加できるように、時期や日程等を配慮した。

一方、長引くコロナ禍の中、新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分配慮し、オンラインやハイブリッド型研修も導入した。

【教育講演会】

（１）講座開設内容

Ａ　対象となる教職員が受講する講座（１０講座）

	講　座　名	講　　師（所属）	期日	場　所	参加数
1	教育講演会	山田ルイ５３世 (お笑いタレント髭男爵)	7/27	加西市民会館 文化ホール	267
2	新任教員研修①	学校教育課指導主事	6/17	下里小学校	19
3	新任教員研修②	学校教育課指導主事	8/8	富合小学校	19
4	新任教員研修③	学校教育課指導主事	10/5	加西中学校	18
5	若手教員研修	足立　宏規 (元丹波市立学校長)	6/16	センター	22
6	中堅教員研修	安富　重則 (学校教育課長)	9/27	センター	23
7	ベテラン教諭研修	西口　隆 (元明石市立小学校長)	10/18	加西市民会館 視聴覚室	31
8	教育経営	三枝　大地(株式会社吉本・オガール地方創生アカデミー運営責任者)	9/28	加西市民会館 小ホール	52
9	管理職研修	浅野　良一 (兵庫教育大学大学院特任教授)	8/25	センター	32
10	事務職員研修	金沢　李佳 (金沢公認会計士事務所税理士)	8/17	センター	16

Ｂ　対象となる教職員と希望する教職員が受講する講座（１８講座）

11	研究推進実践	繁中　一也 (学校教育課専門推進員)	7/5	加西市民会館 小ホール	23
12	学級経営	三船　美里 (元加西市立中学校主幹教諭)	6/20	センター	25
13	加西っ子の学びセミナー	学校教育課指導主事	1/20	センター	33
14	授業改善実践①	長谷　浩也 (姫路大学教授)	8/3	加西市民会館 小ホール	20
15	授業改善実践②	長谷　浩也 (姫路大学教授)	8/18	加西市民会館 小ホール	18
16	生徒指導	稲岡　信裕 (総合教育センター指導主事)	10/4	センター	17
17	情報モラル教育研修	竹内　義博 (ソーシャルメディア研究会)	10/11	加西市民会館 視聴覚室	20
18	ICT活用による授業改善(1)	前田　康裕 (熊本大学大学院教育学研究科特任教授)	8/2	オンライン	41
19	教科指導(国語)(１)	服部　英雄 (元加西市立小学校主幹教諭)	8/4	センター	25
20	教科指導(国語)(２)	遠藤　瑛子 (元同志社大学文学部講師)	6/14	泉中学校	9
21	教科指導(図工･美術)	高見　雅博 (一般社団法人示現会兵庫支部長)	7/28	北条小学校	24
22	教科指導(家庭科)	井岡　徳子 (元小野市立中学校主幹教諭)	8/1	富田小学校	14
23	教科指導(理科)	永長　英夫 (元加西市立中学校教諭)	11/15	北条中学校	7
24	教科指導(英語)	若林　節子 (姫路獨協大学名誉教授)	6/17	善防中学校	16
25	教科指導(算数･数学)(1)	川内　充延 (兵庫教育大学大学院准教授)	6/21	北条中学校	14
26	教科指導(算数･数学)(2)	加藤　久恵 (兵庫教育大学教授)	12/8	富合小学校	22
27	道徳授業実践(1)	行本　美千子 (元神戸市立中学校長)	10/6	富合小学校	23
28	道徳授業実践(2)	行本　美千子 (元神戸市立中学校長)	5/11	泉中学校	36

Ｃ　希望する教職員が受講する講座（１３講座）

29	教師力向上研修(1)	山中　一英 (兵庫教育大学大学院教授)	8/5	センター	15
30	教師力向上研修(2)	工藤　憲人 (総合教育センター所長)	8/30	加西市民会館 視聴覚室	32
31	教師力向上研修(3)	工藤　憲人 (総合教育センター所長)	12/6	センター	19
32	プログラミング教育研修	森山　潤 (兵庫教育大学大学院教授)	11/14	センター	15
33	ICT活用による授業改善(2)	鍵本　優紀 (株式会社ロイロ)	8/30	オンライン	17
34	ICT活用による授業改善(3)	ICT 支援員	8/17	センター	10
35	特別支援教育研修(1)	中尾　繁樹 (関西国際大学教授)	6/15	加西特別支援学校	48
36	特別支援教育研修(2)	高松　崇 (ＮＰＯ法人支援機器普及促進協会理事長)	8/29	加西特別支援学校	55
37	児童生徒支援(1)	石堂　裕子 (発達支援アドバイザー)	10/3	加西市民会館 小ホール	59
38	児童生徒支援(2)	吉村　友子 (臨床心理士)	11/24	加西市民会館 小ホール	31
39	児童生徒支援(3)	原田　かな江　　友井 佐保里 (スクールソーシャルワーカー)	8/26	加西市民会館 視聴覚室	34
40	幼児教育研修	木下　光二 (鳴門教育大学教授)	8/9	オンライン	37

41	幼小連携	高見　恭子　　野田　菜摘 (加西こども園教諭)	7/29	加西こども園	中止

Ｄ　特別講座（５講座）

42	教員志望研修(教志塾)	学校教育課指導主事	1月～ 7月	市庁舎	
43	加西STEAM教育研修(1)	森山　潤　　永田　智子 (兵庫教育大学大学院教授)	10/27	加西市民会館 小ホール	29
44	加西STEAM教育研修(2)	小泉　志信 (東京都東久留米市立南小学校教諭)	10/21	泉小学校	16
45	加西STEAM教育研修(3)	吉田　理子 (Ｓ－ｎｅｔサポーターズ代表理事)	11/15	富田小学校	16
46	道徳授業実践特別編	横山　利弘 (元関西学院大学教授)	11/17	泉中学校	13

（２）講座受講後のアンケート

講座終了ごとに、受講者にアンケートを実施した。本年度、講座の精選と内容の更なる充実を期し、受講者や学校（園）現場のニーズに適合していたか、教育（保育）実践に有益であったかを評価するように変更した。結果、５段階評価で、全評価の平均は 4.67 で、講座への満足度が大変高いことを示している。

また、意見欄に書かれていた感想と要望や改善してほしい点の主なものは次のとおりである。

ア　感想

【講師】

・豊かな経験と確かな実践に基づいた話は、自分を振り返る良い機会となった。
・学校関係者以外の講師先生から学ぶ機会は新しい視点を得ることができる。
・講師先生の態度、話し方には、自分の目指す教師としての姿の参考になるものがあった。
・元教師である専門分野の講師からの新情報や助言は、現場で活用しやすいと感じた。
・こんなにも有名な先生の講座に子ども園からも参加できる研修は素晴らしい。

【教育経営講座】

【内容】

・今、自分が仕事で思い悩んでいたので、きわめてタイムリーで、貴重な研修であった。
・個人の指導力向上だけでなく組織力を向上させることの重要性を再認識し、工夫のある研修の機会づくりに努めなければならないと決意させられた。
・非常に刺激的で学びの多い内容だった。悩んでいたことに対して少し明かりが見えた気がする。他校の先生方との意見交換も時間が足りないくらい盛り上がった。
・大人側・教師側の考え方だけにとらわらず、子どもたちの現状や考え方を理解することの大切さがわかった。
・教師だからこそ、人間性を磨き続けることの必要性を強く感じた。最後の言葉が心に沁みて涙が出そうになった。
・加西市には子どもたちを支援するための様々な関係機関があり、その子にとっての居場所や支援の仕方を、あきらめず考えることが大事だということがわかった。

【方法】

・各校の悩みや情報を共有できるのがありがたかった。また、事前の資料配布により、見通しをもって講座に参加できた。
・他校種の授業参観の機会はあまりないので、いつもとは異なる発達段階の子どもたちを見ることができてよかった。
・事例検討を取り入れた研修はすごく参考になった。
・授業改善につながる新しい情報をたくさん聞くことができた。また、オンライン研修でも話し合って交流したり、自分の考えをアウトプットするなど能動的な研修ができた。

イ　意見・要望

・意見交流の時間は他校の情報を共有できてよかったが、短時間であったため質問できなかった。もっと長く設定してほしい。
・資料を事前に配布していただけるとありがたい。
・多人数の必修研修となると校内が手薄になる。影響の少ない夏季休業中に計画してほしい。
・オンライン研修や録画研修など、様々な研修形態で受講できるとありがたい。
・情報機器の発達で有名な講師の方でもオンラインで話を聞くことができる。どんどん計画してほしい。
・個人的には参加できにくい実地研修的なものを計画してほしい。

（３）成果と課題

教育における“不易”と“流行”を見定め、現場や教職員のニーズに対応して、特別講座を含め各講座に工夫を凝らし内容の充実を図った。長引くコロナ禍の中、オンライン研修も併用したが、講座全体として高い評価が得られた。

研修講座を振り返っての成果と課題は次のとおりである。

ア　成果

・不登校、引きこもりの経験者の生の声を、保護者も交えて聞くことができ、高評価を得た。（教育講演会）
・喫緊の課題に対応した研修内容とすることで、学校現場、教職員のニーズに応えることができた。
（加西ＳＴＥＡＭ教育、ＩＣＴ活用による授業改善、プログラミング教育研修　等）
・各分野の第一人者、著名な講師を招聘することで、教職員の意欲を一層喚起できた。
（前田　康裕氏：ＩＣＴ活用による授業改善、浅野　良一氏：管理職研修、木下 光二氏：幼児教育、中尾　繁樹氏：特別支援教育研修、横山 利弘氏：道徳授業実践特別　等）
・民間から講師を招聘することで、新たな視点を得て教師力向上につながった。
（教育経営、ＩＣＴ活用による授業改善、情報モラル教育、加西ＳＴＥＡＭ教育　等）
・校内研修や教科担当者会と共催することで、現場が希望する研修を市内教職員に広めることができた。
（特別支援研修、道徳授業実践、教科指導各教科　等）
・校種や年齢の異なる教員が同一テーマで協議することで、様々な考えに触れる機会となり校種間、世代間交流が図ることができた。
（教科指導各教科、特別支援教育、発達支援、幼児教育研修　等）
・講座や公開授業でのＩＣＴ機器の活用が見られた。
（授業改善実践、教科指導等）
・オンライン研修により、コロナ禍においても受講の機会を確保することができた。

イ　課題

・時代、社会、地域の要請に応え、教職員や現場のニーズに合致するように、内容や講師の選定に一層努力して講座を設定する。
・研修講座の受講により、学校現場の運営や教職員の負担が大きくならないように、講座開設の時期、時間帯を熟考する。
・研修におけるＩＣＴ活用の更なる促進を図る。
・集合型研修とオンライン研修の特性や利点を検証し、区別化を図る。

【管理職研修】

【幼児教育研修】（オンライン）

（４）来年度講座アンケート調査結果

研修講座の本年度の検証と、次年度の一層の充実、教職員が受講しやすい環境整備に向けて、全教職員を対象にアンケート調査を実施した。

以下はその概要である。

ア　教職員が希望する講座内容

・特別支援教育
・生徒指導・不登校
・ＳＴＥＡＭ教育
・学級経営
・児童生徒支援
・授業力向上・授業改善
・ＩＣＴの効果的活用
・道徳授業
・教師力向上
・幼保連携
・管理職研修

イ　教職員が必要と思う講座

・ＳＴＥＡＭ教育（３Ｃ人材育成）
・ＩＣＴの効果的活用
・教科指導・授業力向上
・生徒指導・不登校
・保護者対応
・学級経営
・教師力向上
・特別支援教育
・働き方改革・業務改善
・子ども児童生徒理解
・幼保連携

ウ　講座への要望・意見

【全般】

・素晴らしい講師の招聘、開催方法の工夫等、現場教職員のための尽力に感謝する。
・教職員のニーズに対応し、研修講座が充実している。年々興味深い講座が増え、選択の幅が広がっているように感じる。
・誰でも参加しやすいテーマの研修があれば全職種から参加できるのではと思う。
・小規模校では分掌が多く、悉皆研修だと負担が大きい。柔軟な対応を願う。

【内容】

・専門性の高い講師先生を招聘いただき感謝している。講座の更なる充実のため、今後も継続願いたい。
・多市町がうらやむ充実した研修講座ばかりで、満足している。
・教職員や学校による差異が顕著にならないよう、ＳＴＥＡＭ教育の方向性やＩＣＴの活用等の講座を継続してほしい。
・新型コロナ対応や熱中症対策等、環境が急変している中、子どもの心身の安全や学校の危機管理のための研修を受けたい。

【形態】

・悉皆（責任出席）ではなく、自ら学びたいと思う講座に参加できればよいと思う。
・オンライン研修が増えることを望む。

（５）来年度講座の予定

上記のアンケート調査の結果を吟味し、教職員の希望・意見等も反映させ、来年度の講座を下記のとおり企画する。

研修講座開設の手順

・４月中　　講座開設準備、講師の決定
・５月中旬　　受講申し込み受付
・６月　　講座開始

２　自主研究活動グループ

（１）活動支援と研修内容

教職員の指導力や資質能力の向上に資するため、教職員が自主的に構成するグループの研究や研修活動を支援した。

ア　研究会の名称　　授業実践開発研究会

イ　活動メンバー　　11名

ウ　研究テーマ　　「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業のあり方に関する研究

エ　研究目的

研究テーマに関連して、参加者個々が自らの課題や関心に基づいて、様々な教科や内容においてテーマにつながる研究や実践を行い、理論や指導方法の工夫について共有することで学びを広げる。

オ　研究の概要（活動日程や内容等）　　研修場所：北条東小学校

実施日	活　動　内　容	講　師　等
７月　８日(金)	参加者自己紹介・活動内容と日程の計画	
９月　２日(金)	【演習・討議】 内容「総合的な学習の時間の評価について」 提案者：泉谷友栄 内容「石井英真『授業づくりの深め方』 第１章授業作りのフレームと５つのツボ 第２章未来社会をよりよく生きるための 新しい学力と学びの形」について 提案者：石野亮	
９月　９日（金）	【演習・討議】 内容「石井英真『授業づくりの深め方』 第３章目的・目標（Goal）を明確化する」 について 提案者：石野亮	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講師招聘を中止
９月１６日（金）	【演習・討議】 テーマ「PBLにおけるファシリテーションのあり方」 提案者：是常弘幸	
９月３０日（金）	【演習・討議】 内容「石井英真『授業づくりの深め方』 第４章教材・学習課題（Task）をデザインする」について 提案者：江副悠樹	
１０月　７日（金）	【演習・討議】 テーマ「夢リストから始める金融教育」 提案者：鈴木翔太	
１１月１０日（金）	【演習・討議】 内容「石井英真『授業づくりの深め方』 第５章学習の流れと場の構造（Structure） を組織化する」について 提案者：鈴木晴美、鈴木翔太	

１２月　９日（金）	【演習・討議】 内容「石井英真『授業づくりの深め方』 第６章技とテクノロジー（Art&Technology）で巧みに働きかける」について 提案者：市場麻奈美、増田育実	
１月２０日（金）	【演習・討議】 内容「特別の教科道徳学習指導研究発表『未来を作り出すあたたかく　たくましい子の育成』」について 提案者：小山美香	

（２）成果と課題

長引くコロナ禍の中、工夫を図りながら、自主的に、自己の課題解決や資質向上に向けた取組がなされた。今後の活動継続と、新たなグループが参画できるよう支援の方法を改善していく必要がある。

以下は、本年度の活動グループの成果である。

授業実践開発研究会　成果

・今年度は、「主体的・対話的で深い学び」を実現に向けて、石井英真著『授業づくりの深め方―「より授業」をデザインするための５つのツボ―』という書籍について、みんなで読み深める活動を行なった。章ごとに分担してその内容をまとめて発表し、それについて討議を行なったが、共通の課題を設定することで、より互いの発表内容についての理解が深まり、討議もより充実したものとなった。

・演習を取り入れた提案では、提案された内容に関連して日頃実践していることや今後取り組みたいと思っていることなどを交流することで、多面的な視点から授業改善に向けてのヒントを得ることができた。

９／２　　総合的な学習の時間の評価について

１１／１０　「学習の流れと場の構造（Structure）を組織化する」について

３　ＩＣＴ教育

（１）概要説明

「ＧＩＧＡスクール構想」、文部科学省が打ち出したスローガン「１人１台端末は令和の学びのスタンダード」を受けて、令和２年 10 月、加西市立小・中・特別支援学校の児童生徒一人一人に１台の Chromebook が貸与され、実質的な運用が開始された。

令和２・３年度は、推進の基本として、学習指導要領に則った教育活動を展開する上で、ＩＣＴ機器の効果的な活用について模索し、加西市のスタンダードを確立することにした。また、高度情報化社会に順応可能な情報活用能力の育成や、教職員の業務改善にも重点をおいてきた。

手探り状態での取組ではあったが、基本的なスキルの向上や、実践事例の蓄積を重ねたこと等で一定の成果を得た。一方、健康被害や著作権、セキュリティーポリシー等で、活用頻度が増すにつれ、浮き彫りにされた課題への対応も余儀なくされている。

そこで、令和４年度は推進計画として３本の柱立てをした。

・策定された指針をもとに、児童生徒・教師ともが基本的なスキルを習得する。
・実践事例を参考にしつつ、授業改善のためのより効果的なＩＣＴ機器の活用方法を探求する。
・情報モラルや著作権問題等、リスクマネジメントへの意識高揚を図る。

また、活動にあたっては、学校を主体とし、デジタル戦略課・学校教育課・教育総務課との連携を図り、センターがマネジメントを行うという組織体制をとった。

（２）ＩＣＴ教育推進にあたって

活用するＩＣＴ機器、アプリや機能の選定、操作能力をどのレベルまで求めるのか等、加西市のスタンダード化のために教職員間の共通理解を図った。

ア　ガイドライン周知徹底

「Chromebook の活用に係るガイドライン　Ver.2」の教職員への周知徹底を図った。

イ　習得の指針設定

各種アプリや機能について、習得のレベルをステップ分けした表「めざせ Chromebook マスター」（児童生徒向け）と「教職員ＩＣＴ向上指標」（教職員向け）の２種を作成し、目標を設定した。また、習得のレベルを問うアンケートを実施し、今後の研修内容や支援の方法についての参考とした。

ウ　各種会合開催

	会合名称	参加者	目的	回数
1	情報教育推進連絡会	関係機関・小中担当校長	企画調整	随時
2	小・中・特合同情報担当者会	担当者・小中担当校長	協議・決定機関	年３回
3	ＩＣＴ支援員連絡会	ＩＣＴ支援員	情報交換	月１回

（３）教職員のスキルアップ

ア　総合教育センター主催研修講座

	講座名・研修内容	講 師 等	期日
1	ＩＣＴ活用による授業改善講座（１）	熊本大学大学院教育学研究科特任教授　前田　康裕	8/2
2	ＩＣＴ活用による授業改善講座（２）	株式会社ロイロ　鍵本　優紀	8/30
3	ＩＣＴ活用による授業改善講座（３）	ＩＣＴ支援員	8/17
4	情報モラル教育研修講座	ソーシャルメディア研究会　竹内　義博	10/11
5	プログラミング教育研修	兵庫教育大学大学院教授　森山　潤	11/14

昨年度の振り返りをもとに、教職員のニーズに沿って実施した。

・授業改善を目標とし、ＩＣＴ機器を活用のもと、より効果的な指導方法についての研修に重点をおいた。
・プログラミング研修は、概論を再確認するとともに、実践を取り入れた。
・Chromebook に搭載されているアプリや機能の基本操作研修は、ＩＣＴ支援員の支援を前提として各校での研修を重視することにした。

次年度は、実践の幅が広がりつつある現状を鑑み、より実効力のある実践事例研修を取り入れる予定である。

イ　ＩＣＴ支援員によるサポート

小・中学校、15 校に７名のＩＣＴ支援員が週１日程度配置されている。ＩＣＴ機器活用時に効果的な指導を展開するためのアドバイスを行うとともに、教職員の業務改善にも資することを目的としている。

・アプリや機器の設定等についての職員研修やアドバイス
・機器操作に戸惑っている児童生徒への支援、質問や安易なトラブルへの対応
・機器やネットワークの不調をデジタル戦略課へ報告
・活用事例の収集と収集内容の紹介
・機器の設定やアプリのインストール等の支援
・校務処理効率化のためのアドバイス

ウ　情報提供

令和２・３年度は、活用事例を蓄積することに重点を置いてきた。令和３年度後半より令和４年度にわたり、より効果的な活用を実現するために、情報共有の活性化を図り、センターが情報の要となり情報を発信している。

・機器の設定やアプリの操作等、紙ベースや動画でのマニュアル作成と提示
・各校や各種団体が実践している事例の収集と提示
・近隣市町や他府県の活用事例や運営方法を収集し提示

（４）ハードウェア・ソフトウェアの保守と充実

デジタル戦略課・教育総務課と連携を図り、学校の実態とニーズを把握し、ハードウェア・ソフトウェアの保守と充実の支援にあたった。

・Chromebook の家庭への持ち帰り時、Wi-Fi 環境が整備されていない家庭へのモバイルルーター貸出の調整にあたっている。
・電子黒板、ZoomRooms をはじめ、効果的な活用を実現するためのＩＣＴ機器の充実を図っている。
・創作ブロック「加西ＫＯＯＶキット」をリレー形式で各校に貸出し、プログラミング教育の充実を図った。

（５）成果と課題

ア　成果

・教職員の共通理解のもとガイドラインが改訂され、各校同様の運営を可能とした。
・「めざせ！Chromebook マスター」「教職員ＩＣＴ向上指標」を作成したことにより、スキル面で明確な目標が確立された。学年に応じたスキルを順調に取得しつつある。
・３種の会合を開催することにより、教職員の共通理解を得た。
・実践事例集の充実を図ることにより、教職員による実践の幅を広げる一助となった。
・マニュアル作成や関係コンテンツの紹介等のサポートが効果的に働いた。
・プログラミング教育の教材として「加西ＫＯＯＶキット」の活用が標準化しつつある。
・Chromebook 利用の時間設定を一括して行うことにより、児童生徒の健全育成と健康面の不安が緩和された。

イ　課題

・教職員のアプリや機能の操作スキルは向上しつつあるが、個人差はある。
・各種指標は試行段階であり、加西市スタンダード化にはさらに改訂が必要である。
・機器の不具合、Wi-Fi の接続状況等、不測の事態への対応を余儀なくされる場合がある。
・電子黒板等、効果的に活用するには機器が不足している。
・活用頻度が高くなるに連れ、著作権や肖像権、個人情報の管理、健康面への配慮等、リスクマネジメントの必要性が高まっている。

４　小中連携教育

平成 24 年度より中学校区ごとに「小中連携教育推進委員会」を設置し、平成 27 年度からは「加西市小中連携プラン」にもとづいて「学力の向上」、「中１ギャップの解消」、「教師力の向上」を目指して小中連携教育を推進してきた。小中連携プランは、施行から５年が経過した令和２年度に見直しを行った。小中連携プランでは全中学校区に一律で実施を求めていた活動内容を、中学校区の実情に合わせて柔軟に実施できるようにし、名称も「加西市小中連携教育推進ガイドブック」に改めて、令和３年度より適用している。

（１）小中連携教育推進委員会

市としての方針や取組の共通理解と中学校区間の情報交換のために、「加西市小中連携推進委員会」を年２回開催している。令和４年度は、５月 10 日(火)と２月 13 日(月)に開催した。

	加西市小中連携教育推進委員会での協議内容
1	小中連携アンケートの結果から見る成果と課題について 各中学校区における小中連携教育の取組について ・今年度の取組のテーマ決定　　・中学校区の年間推進計画作成 ・学習指導、児童生徒理解･生徒指導、研究会･研修会などの、各分野における取組内容検討
2	各中学校区における小中連携教育の取組について ・今年度の取組の成果と課題 ・今後の方針、次年度の取組のテーマと内容

（２）小中連携に関するアンケート調査の実施

小中連携教育の成果と課題を児童生徒の意識から探るために、平成 30 年度から、市内全小学校の６年生（以下小６児童）と全中学校の１年生（以下中１生徒）を対象にアンケート調査を実施している。令和元年度から、入学前後で児童生徒の意識がどのように変わったのかを追跡調査している。

ア　中１生徒の入学後の戸惑い

アンケート調査の結果、中１生徒の入学後の戸惑いは、昨年度の中１生徒と比べて校則が変わったことや新しい人間関係に関する質問で大きくなった。これは、３学期に新型コロナウイルスの感染が広がり体験入学が中止になったことが影響したものと推察する。男女別では女子の方が明らかに戸惑いが大きく、特に部活に関する質問では男子の３倍になっている。

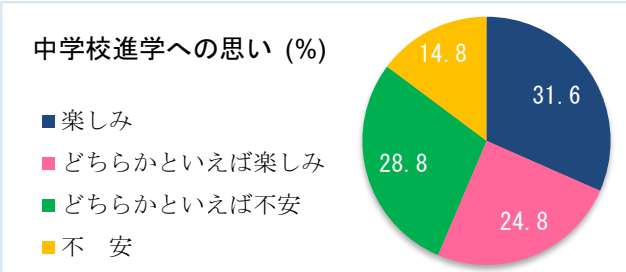
小小や小中の交流、中学校の授業体験など小中連携の取組が戸惑いを減らすことにつながったのかを尋ねる調査では、「戸惑いを減らすことにつながった」とする回答が「ある程度」を含めると、例年全質問の平均が 90%近くになっている。しかし、前年度は体験入学が中止になったために「体験していない」と回答した生徒が多く、有効なデータがとれなかった。

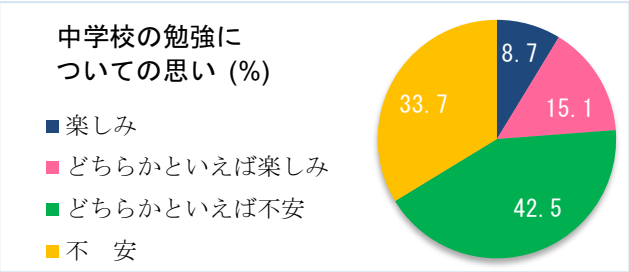
追跡調査の結果を見ると、本年度も進学前の不安より入学後の戸惑いの方がその割合が小さく、不安をもって進学した生徒の多くが適応できたことがわかった。その一方で、勉強や定期テストに関する質問では、不安がそのまま戸惑いになっている生徒も多い。また、新しい人間関係に関する質問の中には、進学前の不安より入学後の戸惑いの方が大きくなっているものがあり、中学校での細かい生徒観察と適切な個別支援が必要である。

イ　小６児童の進学前の不安

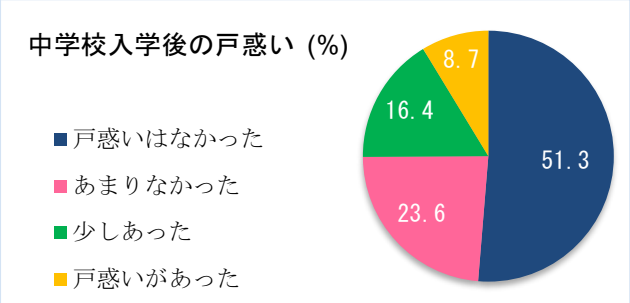
小６児童の進学前調査を見ると、多くの質問で昨年度より不安と答えた割合が増えている。特に勉強に関する質問では顕著で、80％近くの児童が不安をもっている。５年間の調査で、学力に課題のある児童が不安を選択する傾向があることがわかっており、小６児童の勉強面での不安が年々大きくなっていることが気にかかる。小学校で基礎学力をしっかり身につけさせ、学習面の不安軽減を図る必要がある。男女別では、女子の方が不安と答えた割合が大きい。

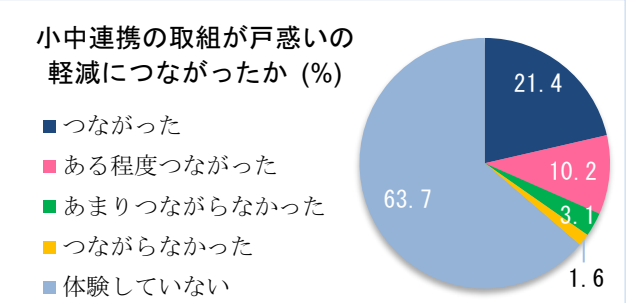
【小６児童　進学前の不安】　＊R4.11月実施の小中連携アンケート進学前調査　（回答　11小学校 305 名）





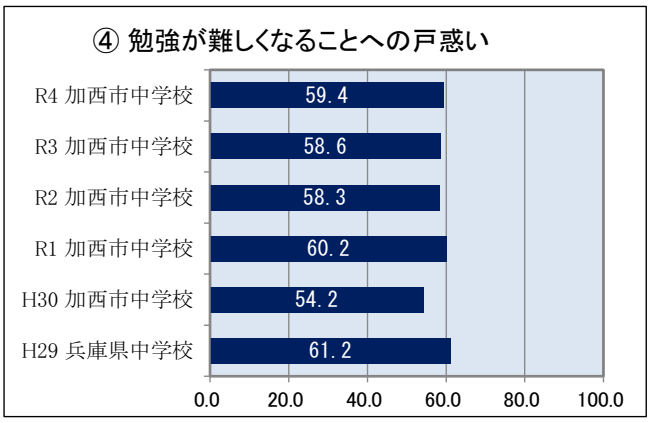
【中１生徒　進学後の戸惑い】　＊R4.7月実施の小中連携アンケート入学後調査（回答　4中学校　271 名）

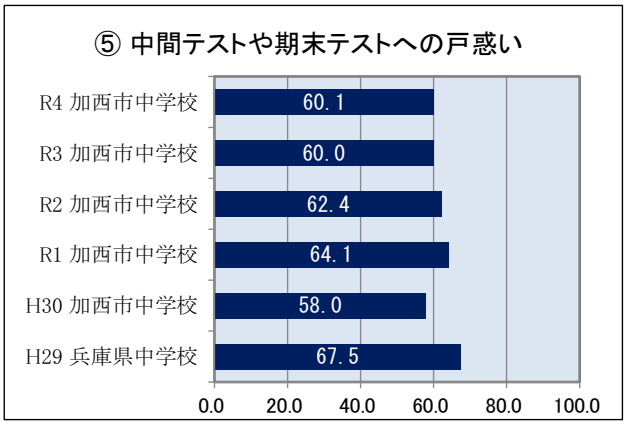


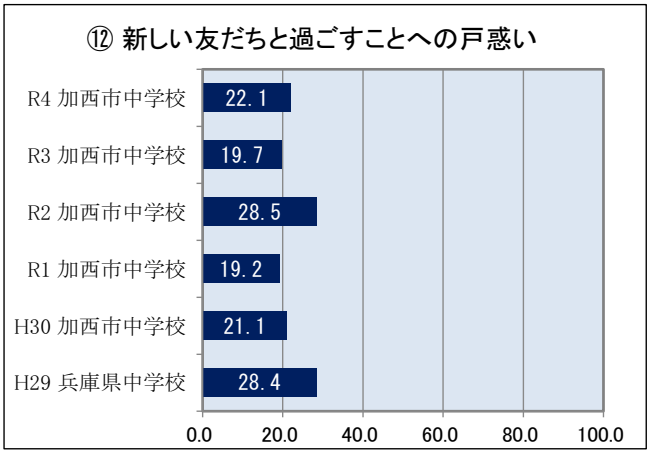


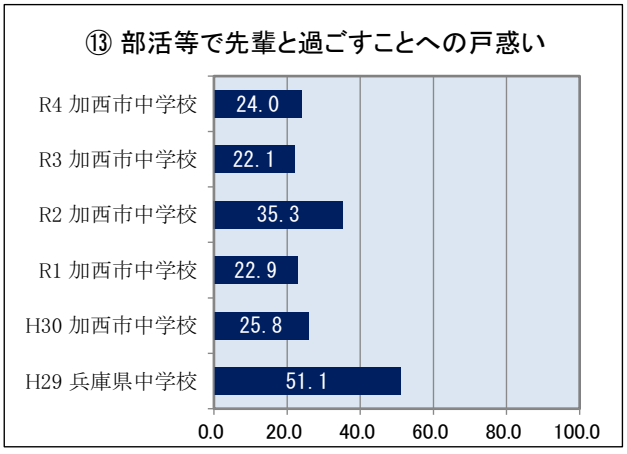
【中１生徒進学後の戸惑い　主な質問の経年変化と県調査との比較】（1学期末調査）

＊数字は、アンケート調査で「戸惑いがあった」もしくは「少し戸惑いがあった」と回答した生徒の割合(%)









＊兵庫県データは、H29. 7 月実施調査（県教委小中一貫教育調査研究事業最終報告より）

調査実施校：中学校　43 校，義務教育学校　1校　回答　1,811 名（内　小中一貫取組校　8校　510 名）

＊加西市データは、加西市4中学校1年生対象　小中連携アンケート調査

H30.7月（回答 308 名）、R1.7月（回答 338 名）、R2.8月（回答 333 名）、R3.7月（回答 275 名）、R4.7月(回答 271 名)

（３）各中学校区の取組

ア　推進体制

本年度も、すべての中学校区において、小中連携教育推進委員会や中学校区での協議をもとに合同研修会や相互授業参観、小小や小中の児童生徒の交流会、授業体験などを計画した。依然として新型コロナウイルスの感染が続いているため、小中交流会や合同研修会の規模を縮小したり時間短縮を図ったりするなど工夫して開催したケースがある。

イ　取組内容

小中連携の取組に関する当初計画は下表のとおりである。これは、４つの中学校区の取組を網羅したもので、一部の中学校区のみが計画した取組も含まれる。（△印は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために計画通り実施できなかったもの。）

観点	当初計画の内容
学力の向上をめざして	・落ち着いて学習できる環境づくり ・中学校教員による小学校への乗り入れ授業（算数､英語） ・小学校英語から中学校英語への接続について共通理解 △小小合同授業（自然学校前の出前授業、オンラインでの社会や英語の合同授業） ・小中合同研修会で学習規律など学習指導に関する共通理解 ・「家庭学習ハンドブック」を活用した学習習慣の共通理解 ・キャリアパスポートの引継ぎ（中学校で活用） ・「小中連携指導シート」を活用し９年間を見通した教科指導 ・６年生３学期に算数調査を実施（実態把握）
ー円滑な接続をめざしてー中１ギャップの解消	【生徒指導・児童理解】 ・学校・警察・総合教育センター連絡会での情報交換 ・中学校区教育支援委員会での情報交換 ・小中連絡会での情報交換 ・特別支援コーディネーター会議での情報交換 ・青少年健全育成会町別懇談会での情報交換と標語募集への参加 ・オープンスクール等での授業や学校生活の相互参観 ・生徒指導事項に関する共通理解 いじめの未然防止や対応方法、ネット・スマホの使用ルール、時刻の認識、清掃、挨拶、給食、頭髪、自転車の乗り方指導等 ・中学校区でノーメディア・ノーゲーム週間の設定（中学校定期考査にあわせて） ・生活・学習アンケートの実施・考察 ・道徳性アンケートの実施・考察 ・小中連携アンケートの実施と、不安や戸惑いの大きい児童生徒への支援
	【体験行事　小小、小中の交流】 △中学生の小学校行事への参加（吹奏楽部の演奏等） ・小中交流会 生徒会・児童会主催による各種レクレーション等 △小小連携 中学校区小学校合同の自然学校、社会見学旅行、オンラインでの授業や交流 ・新入生保護者説明会

中1ギャップの解消	・中学校体験入学 　中学校の授業を体験、授業参観、部活動の見学や体験、施設見学 　生徒会役員による中学校生活についての説明 ・祭りや三世代ふれあい行事等、地域行事への参加呼びかけ ・地域でのボランティア活動の推進（公民館祭りへのボランティア参加等）
教師力の向上をめざして	・研究発表会やオープンスクールなどでの相互授業参観 ・スクールカウンセラーによるカウンセリングマインド合同研修（アンガーマネジメント、不登校支援、児童生徒理解、特別支援教育） ・研究推進委員や担当者の情報交換 ・合同研修会（生徒指導、集団作り《児童会、生徒会》、学習指導、９年間を見通した教科指導のあり方《「小中連携指導シート」を活用して》） ・道徳や英語、算数･数学の授業研究会への相互参加

（４）成果と課題

ア　成　果

・小中連携アンケートの平成 29 年度県調査との比較を見ると、加西市の中１生徒の入学後の戸惑いは、今年度もすべての質問で県中学校平均に比べて小さい。これは、円滑な接続をめざして地道に取り組んできた小中連携教育の成果でもあると考えられる。
・中学校からの乗り入れ授業や中学校での授業体験は定着しつつあり、中学校の先生による授業を体験することが、中１ギャップの軽減につながっている。これまでのアンケート調査でも、中１生徒の 90%以上が、授業体験が戸惑いの軽減につながったと回答している。
・小中連絡会や学校・警察・総合教育センター連絡会で丁寧な情報交換ができ、以後の指導に役立っている。
・特別支援学級生の現況や指導のあり方について定期的に情報交換会が開催され、小学校から中学校へ支援の継続と共有が図られた。
・今年度は、コロナ対策を講じて小中交流会や体験入学が実施された。小中交流会や体験入学は内容が充実しており、小６児童の中学校進学への不安を軽減させる絶好の機会になっているだけでなく、受け入れる中学生にとっても良き学びの場になっている。
・算数調査により、子どもの課題を中学校がある程度把握したうえで、適切な指導を組み立てることができた。中学校での学力向上につながっている。
・道徳性アンケートにより、育っていない道徳的判断力・実践力を把握したうえでカリキュラム編成ができた。また、学級経営や生徒指導につなぐことができた。
・小中合同のカウンセリングマインド研修会、学習指導研修会、情報交換会など、小・中教員の交流が増え、指導の継続性や発達段階に応じた指導についての意識が高まっている。
・中学校区の合同研修会では､「小中連携指導シート」を活用して９年間を見通した教科指導のあり方について協議する校区が増えており、教師力向上につながっている。

イ　課　題

・新型コロナウイルスの感染拡大のために、現中１生徒は全員が体験入学を経験していない。そのためか、入学後のアンケート調査では校則や新しい人間関係に関する戸惑いが大きくなっている。コロナ禍の中、小中連携教育に関する行事をどう工夫するのか、また、中止になった時の代替措置をどうするのかが課題である。
・小中連携に関する行事や打合せの時間の日程調整が難しい。
・今後も情報交換や合同研修会等を充実させることで、小・中教員の共通理解を深め、９年間を見通した教育を実践するという意識を一層高めていくことが大切である。
・９年間を見通した指導を充実、発展させるためには、合同研修会等で「小中連携指導シート」をもとに、指導の系統性を小・中教員間で確認し共有することが大切である。

５　図書コーナー

【貸出受付】

センター２階にある図書コーナーでは、教育関係の図書や雑誌、国県市町、大学、教育機関等の資料を収集、配架するとともに、会議、閲覧用の机や椅子を設置している。

年度初めに、学校経営や生徒指導、学習指導などに分類した所蔵リストを作成し、公立学校園に配布したり、ホームページで公開したりして、教職員や市民に貸出を行っている。市内公立学校園向けに、年４回の移動図書館を実施して、利便性の向上に努めている。年度途中に学校等が購入を希望する図書の調査を行い、新刊や希望図書を購入して、図書コーナーの充実を図っている。

（１）所蔵状況　（令和５年１月 31 日現在）

昨年に比べ、蔵書数は、図書では 234 冊、雑誌では 138 冊、視聴覚資料では５点増加した。加西市小中学校図書室電算化作業に伴い、「Ｌｉｃｓ－Ｒｅ３」が導入され、図書管理システムが一新された。このことにより、インターネットによる蔵書検索・貸出予約等が可能になった。

ア　図書（2,984 冊）

分　　類	冊　数
生徒指導関係	291
特別支援教育関係	371
学校経営・学級経営関係	843
道徳・特活・総合学習関係	167
幼児教育関係	125
小学校教科関係	579
中学校教科関係	231
加西市関係	37
教育関係	102
その他	238

【図書コーナー】

イ　雑誌（4,253 冊）

分　　類	冊　数
国関係（学習指導要領を含む）	488
大学関係	84
兵庫県関係	583
加西市関係	386
県内市町関係	567
教育雑誌	2,024
その他	121

【教育雑誌 書架】

ウ　視聴覚資料（341 点）

分　　類	点　数
国関係	4
兵庫県関係	39
県内市町関係	18
生徒指導関係	8
学校経営関係	21
教科関係	131
道徳・特活・総合学習関係	91
その他	29

【視聴覚資料】

□令和４年度 新規購入図書　　**全 234 冊**

	書　　名	編 著 者	出 版 社
生徒指導	スクールカウンセリングのこれから	石隈　利紀	創元社
	実践入門！学校で活かす認知行動療法	嶋田　洋徳	ほんの森出版
	子どもの問題行動へのエビデンスある対応術・ケースで学ぶ応用行動分析学	長澤　正樹	明治図書出版
	大丈夫！不登校。―70 人の先輩たちからのエール	荒井　裕司	ほんの森出版
特別支援教育	今すぐ使える！特別支援アイデア教材 50	佐藤　義竹	合同出版
	特別支援教育はたのしい授業で	山本　俊樹	仮説社
	通常学級の「特別」ではない支援教育	佐藤　愼二	東洋館出版社
	確かな力が育つ知的障害教育「自立活動」Ｑ＆Ａ	菊地　一文	東洋館出版社
	子どものつまずきからわかる算数の教え方	澳塩　渚	合同出版
	発達障害のある子の感覚・運動への支援	岩永竜一郎	金子書房
学校・学級経営	学びをめぐる多様性と授業・学校づくり	宇野　宏幸	金子書房
	著作権ハンドブック 先生、勝手にコピーしちゃダメ	宮武　久佳	東京書籍
	教員のメンタルヘルス　先生のこころが壊れないためのヒント	大石　智	大修館書店
	教師が学びあう学校づくり「若手教師の育て方」実践事例集	脇本　健弘	第一法規
	教育ＤＸで「未来の教室」をつくろう	浅野　大介	学陽書房
	学級経営の心得 担任の不安が自信に変わる 150 のメソッド	宮澤　悠維	学事出版
授業づくり	個別最適な学びを実現する ICT の使い方	蓑手　章吾	学陽書房
	できる評価・続けられる評価	澤井　陽介	東洋館出版社
	ロイロノートの ICT “超かんたん”スキル	和田　誠	時事通信出版局
	「学びのミライ地図」の描き方	山本　崇雄	学陽書房
幼児教育	非認知能力を育てる「しつけない」しつけのレシピ	大豆生田啓友	講談社
	１人でできる子が育つ「テキトー母さん」のすすめ	立石美津子	日本実業出版社
	認定こども園運営ハンドブック〈令和４年版〉	中央法規出版	中央法規出版
小・中学校	「まったく書けない」子の苦手を克服！教室で使えるカクトレ	曽根　朋之	東洋館出版社
	板書&問いでつくる「社会科×探究」授業デザイン	中村　祐哉	明治図書出版
	Chromebook でつくる小学校算数の授業	鈴木　詞雄	明治図書出版
	中学校国語　指導スキル大全	佐藤　佐敏	明治図書出版

□令和４年度 定期購入月刊教育雑誌　　教育雑誌名（出版社）

兵庫教育（兵庫県教育委員会）	指導と評価（日本図書文化協会）	たのしい授業（仮説社）
教育（かもがわ出版）	月刊 生徒指導（学事出版）	道徳教育（明治図書出版）
授業力＆学級経営力（明治図書出版）	総合教育技術（小学館）	月間 学校教育相談(ほんの森出版)
教職研修（教育開発研究所）	実践みんなの特別支援教育（学研教育出版）	
初等教育資料（東洋館出版社）	中等教育資料（学事出版）	特別支援教育研究（東洋館出版社）

（２）成果と課題

本年度も、若い教員向けの学級経営や授業づくりに関する図書や管理職の参考となる学校経営に関する図書、保護者や児童生徒とのコミュニケーションの取り方に関する図書、特別支援教育にかかわる図書を積極的に購入している。また、ＳＤＧｓやＩＣＴに関する本を多く選書している。本年度図書・教育雑誌を合わせて 372 冊を購入し、学校や教職員のニーズに応え、教育に関する新しい本を数多く揃える予定である。

市内すべての小・中・特別支援学校及び公立こども園・幼児園の教職員、教育委員会職員を対象に、購入希望図書の調査を実施したが、37 冊と購入希望図書が少なかった。個人がＦｏｒｍｓというインターネットアプリから直接購入希望を出す方法と、学校ごとに希望図書を集約し報告する方法をとったが、購入希望の提出が例年より少なかった。いつでも思い立った時に希望図書が出せるように、募集期間を長くとったことが原因か、今後、検討を要する。

一方、「市内の教職員にセンターの蔵書が十分に周知されていない」などの課題を抱えていたが、新しく導入される加西市小中学校図書室電算化作業に伴うシステムの更新により、インターネットを通じて蔵書検索や貸し出し予約が可能になるため、蔵書の活用の増進が図られると期待する。

また、図書カードが、市立図書館と一本化するため、市立図書館、総合教育センターの両方での貸出が可能となり、図書全体の利用促進が見込まれる。

これまで、年度当初や新規図書購入時点で図書コーナーのリストを作成し、学校園に配布するとともに、インターネットのホームページ上で、ＰＤＦファイルによる蔵書名や月間教育雑誌の特集記事のテーマを紹介するなど広報活動を行ってきたが、さらに図書を探しやすくなり利用者への蔵書に対する情報量が増える。

各校園が希望する本を届ける移動図書館を継続的に行っている。今年も夏季休業中の教職員の自主研修に合わせ移動図書館を２回実施し、年間４回実施しているが、積極的に活用いただけるようになり、年間の貸出冊数が令和元年度 603 冊、令和２年度 812 冊、令和３年度 969 冊、令和４年度 918 冊と貸出数が年々増加している。（令和４年度はシステム更新の電算化作業に伴い、１月・２月の貸し出しを中止した。）

教職員の多忙感や現代人の読書離れの傾向があるが、学校現場の声や時代の変化を反映し、必要とする図書を積極的に増やすことで、今後も多くの方に利用してもらえる魅力ある図書コーナーをめざして工夫改善に努めていきたい。また、学校園に対する定期的な広報活動や、講座受講者、来訪者への図書紹介の工夫等、図書コーナーのさらなる利用促進を図りたい。

６　学校・家庭・地域の連携協力

兵庫県教育委員会では、「地域とともにある学校」を目指して、「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」を両輪とする「地域と学校の連携・協働体制推進事業」を展開している。それを受けて、加西市教育委員会においても総合教育センターに教員ＯＢの地域コーディネーターを２名配置し、学校運営協議会の設置と地域学校協働活動の一層の充実を目指して取組を進めている。

（１）コミュニティ･スクールに向けて

「学校運営協議会」のある学校を「コミュニティ・スクール」と呼ぶ。「コミュニティ・スクール」は、学校が地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域が一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」へ転換するための仕組である。

平成 29 年 4 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、その 47 条で「学校運営協議会」を設置することが努力義務化された。この改正を受けて、加西市教育委員会においては、令和２年度に学校運営協議会設置に向けた検討委員会を開いて協議を重ね、「加西市学校運営協議会規則」を策定した。そして、令和３・４年度を周知と準備の期間とし、令和５年度よりすべての加西市立学校に「学校運営協議会」を設置する。本年度は、開設するための環境整備を進め、現場の理解を深めるために以下の研修会を開催した。

・「学校運営協議会設置に向けた研修会」
　10 月 31 日(月)　加西市健康福祉会館　60 名参加
　　講師　文部科学省ＣＳマイスター
　　ＮＰＯ法人まちと学校のみらい代表　竹原 和泉
・「兵教大との連携講座兼北播磨合同コミュニティ･スクール研修講座」
　11 月 1 日(火)　オンライン　33 名参加
　　講師　文部科学省ＣＳマイスター　兵庫教育大学教職大学院講師　小西 哲也

また、リーフレットを作成配布し、保護者や市民への啓発に努めた。

（２）地域学校協働活動

ア　地域による学校を支援する活動

本年度も、全学校で地域ボランティアやふるさと創造会議など地域住民や団体による学習支援が行われた。また、小学校の敷地内と通学路ではワッショイスクール協力員や地域見守り隊による見守り活動が行われた。地域コーディネーターは、地域による学習支援に係る連絡調整の他、学校や活動場所を訪問して活動状況の把握に努めた。加西市教育委員会が推進する加西ＳＴＥＡＭ教育の一環として、地元企業や研究機関、公共施設などと協働した取組が増えている。

地域ボランティアや地域団体による学習支援　各校の特色ある取組

学　校	活動内容と支援者･支援団体
北条小	「歴史ガイド隊」　６年希望者 課外（支援：歴史街道ボランティアガイド） 「城山の自然と歴史」　３年総合（環境体験）（支援：小谷城跡保存会）
北条東小	「丸山公園自然観察」　３年総合（環境体験）（支援：地元自然観察指導員） 「STEAM 教育」　５・６年総合（支援：車載電池開発製造　P.P.E.S.《株》）
富田小	「米づくり」３年総合（環境体験） （支援：　ワッショイスクール協力員　窪田町営農組合） 「富田ヨガ」　全校生 体育　（支援：ヨガインストラクター）
賀茂小	「ハリマ王ニンニクの栽培」「ニンニクを使った調理」　３年総合（環境体験） （支援：地元 北本ファーム　賀茂地区ふるさと創造会議） 「バケツ稲栽培」　４年理科・総合（支援：賀茂地区ふるさと創造会議　JA 善防支店）

下里小	「米づくり」「豆腐づくり」　３年総合（環境体験）　（支援：西笠原営農組合） 「食育で STEAM 教育」５・６年総合 （支援：県立農林水産技術センター　西笠原営農組合　善防公民館農産加工教室）
九会小	「あびき湿原の観察と保護活動」　３年総合（環境体験）（支援：あびき湿原保存会） 「平和学習」６年 鶉野飛行場跡と周辺の史跡 （支援：平和祈念の碑苑保存会　加西市観光協会）
富合小	「STEAM 教育」　５・６年総合（支援：コンベアシステム開発製造　伊東電機《株》） 「青野原俘虜収容所見学」６年社会（支援：富合地区ふるさと創造会議）
日吉小	「わくわく料理教室」　４年総合　（支援：がいな製麺所） 「土器づくり」　６年社会・図工　（支援：地元ボランティア）
宇仁小	「安全・安心の綿づくり」　３年総合（環境体験）　（支援：コットンボール銀行） 「宇仁っ子ふるさとガイド」４年総合　（支援：宇仁郷まちづくり協議会 八王子神社）
西在田小	「若井川の水質調査と環境保護」３年総合（支援：地元自然観察指導員） 「福祉体験」「命をつなぐボランティア学習」４年総合 （支援：社会福祉協議会　ライオンズクラブ）
泉　小	「トマト収穫体験とトマト栽培」　３年総合（環境体験）　（支援：高橋トマト農園） 「だし巻き卵づくり」　６年家庭科　（支援：お食事処いづみ）
加西特別支援学校	「学習発表会とわかばフェスティバル」全校行事　＊本年度はＰＴＡと下里小に限定 （支援：　ＰＴＡ　下里小　善防園　市内小・中学校特別支援学級 他）
中学校	「トライやる・ウィーク」（支援：地域の事業所、商店、こども園、公共施設など） 「防災教育」（支援：北播磨消防組合加西消防署　ＮＰＯ法人加西らかん）

営農組合やワッショイスクールと協働

ふるさと創造会議と協働

地域人材と協働

STEAM教育で地元企業と協働

各種保存会と協働

イ　見守り活動

（ア）地域子ども見守り隊

平成 18 年２月に結成され、令和４年度の登録者は交通当番の保護者を含めて 560 名。加西市の全学校において、登下校時の交差点横断誘導や声掛けによる子ども見守り活動を行っている。保護者の目が届きにくいところにおいても注意深く見守り、児童は安心して登下校することができている。

（イ）ワッショイスクール推進事業

平成 15 年より実施。「開かれた学校づくり」「安心・安全な学校づくり」を目指し、地域の方々が学校を神輿（みこし）のごとく支え持つという意味で名づけられている。令和４年度は 313 名が登録し、交代で学校敷地内の巡回や環境整備など、不審者から児童を守るための抑止力として活動している。

ウ　土曜日の教育活動（土曜チャレンジ学習）

子どもたちにとって、より豊かで有意義な土曜日を実現するために、地域の多様な経験や技能をもつ人材の協力により、土曜日等の学校休業日に、体系的・継続的なプログラムを実施している。本年度も６小学校区で計画されたが、昨年度同様にコロナ禍の影響を受けて、一部中止を余儀なくされた。最終的には５小学校区で 35 教室が実施され、参加総数 862 名１教室当たり 24.6 名の児童が参加した。

令和４年度　土曜チャレンジ学習の各校の取組

小学校区	活　動　内　容
北条小	実施内容…ＰＴＡ事業と連携した教科に即した発展的学習 活動内容　《全活動中止》 ①１年学校探検　②２年ミニ運動会 ③３年親子ドッジボール　④４年キャンドルづくり ⑤５年竹細工にチャレンジ　⑥６年ミニ羅漢づくり ⑦陶芸教室　⑧ならの実講演会
北条東小	実施内容…スポーツ活動（陸上競技教室） 活動内容（指導：加西市陸上競技協会会員） ①陸上競技教室（短距離走）　②陸上競技教室（短距離走） ③陸上競技教室（短距離走）　④陸上競技教室（短距離走） ⑤陸上競技教室（短距離走）　⑥陸上競技教室（短距離走） ⑦陸上競技教室（長距離走）　⑧陸上競技教室（長距離走）
下里小 （善防公民館）	実施内容…子ども将棋教室（講義と対局） 活動内容（指導者：日本将棋連盟指導員、地域有段者） ①子ども将棋教室　②子ども将棋教室 ③子ども将棋教室　④子ども将棋教室 ⑤子ども将棋教室　⑥子ども将棋教室 ⑦子ども将棋教室　⑧子ども将棋教室
九会小	実施内容…九会地区ふるさと創造会議と連携した地域学習 活動内容 ①ドッジボール大会　《中止》　②特産ブドウ狩り体験 ③親子料理教室　④気球搭乗体験（いちょうフライト） ⑤親子ペットボトルツリー組立　⑥元プロ野球選手と一緒にボールで遊ぼう ⑦なわとび大会
富合小	実施内容…校区子ども会と連携した教科に即した発展的学習 活動内容 ①ボッチャ教室　②料理教室（ピザづくり） ③ダブルダッチ教室　④グランドゴルフ教室 ⑤三世代ふれあい交流グランドゴルフ大会 ⑥気球搭乗体験
泉　小	実施内容…ＰＴＡ事業と連携した教科に即した発展的学習 活動内容 ①1年親子で学校探検･レクレーション　②２年親子ミニ運動会 ③３年親子レクレーション　④４年親子レクレーション ⑤５年親子レクレーション　⑥６年レクレーション ⑦ドローン教室

エ　地域未来塾（かさい未来塾）

「地域と学校の連携・協働体制構築事業」を受けた地域学校協働活動の一環として、自主的・自立的に学ぼうとする生徒に対して、地域人材等の学習サポーターを活用して、地域と学校の連携・協働による学習支援を行っている。本年度も４中学校で夏季休業中に各校の特別教室で実施した。参加申込者数 148 名、開催日数は延べ 77 日、総参加者数 1682 名、１回当たり 21.8 名の生徒が参加した。

北条中

善防中

加西中

泉　中

（３）成果と課題

・コミュニティ･スクールに向けて、学校運営協議会規則を策定するとともに、研修会を開催して学校現場の理解を深めたり、リーフレットを作成して保護者へ配付したりするなど啓発に努め、道筋をつけることができた。学校運営協議会を、地域とともにある学校づくりにおいて意義あるものにするために、センターとして伴走支援していくことが必要である。

・地域学校協働活動は大変充実している。加西市は、小学校を中心に以前より学校と地域との結びつきが強く、地域住民は学校に協力的である。そのような地域性から、すべての学校が地域を学習の場として生かしたり、地域人材を活用したりして、米づくりなどの栽培活動や食育、自然観察、史跡見学など、様々な体験学習を展開している。学習後の児童生徒や教職員の感想では、有意義な学習ができたとその多くが肯定的に評価している。

・地域学校協働活動の成果として、地域と連携協働した様々な体験を通して郷土の歴史や文化、自然、地域社会の特色について理解を深めるとともに、自尊感情や生命・自然を大切にする心、ふるさとを愛する心など、豊かな心を育んでいることがあげられる。全国学力・学習状況調査の質問紙の結果を見ると、この５年間、加西市の児童生徒は「自分に良いところがある」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「地域や社会の出来事に関心がある」などの質問で全国平均を上回っている。

・地域学校協働活動では、新型コロナウイルスの感染が広がって以降、感染防止対策が新たな課題になっている。また地域との協働活動を実施するために、計画立案や連絡調整、準備などに多くの時間と労力を要することがあり、その負担軽減が課題である。

・ワッショイスクールや地域子ども見守り隊などの学校安全ボランティアは、校区によって人数や方法に違いはあるが、すべての小学校区で活動しており、児童生徒は安心して登下校したり学校生活を送ったりすることができている。しかし、学校安全ボランティアは高齢化が進んでおり、新たな人材確保が課題である。

・土曜日の教育活動（土曜チャレンジ学習）については、ＰＴＡ・子ども会・ふるさと創造会議等と連携を図りながら、地域と密着した様々な教室を行っている。本年度もコロナ禍で若干の制限を受けたが、昨年度より実施回数・参加総数が増え、参加した児童は各教室の活動を通して地域の方々や家族とのふれあいを深めたり、地域のよさを見つけたりすることができた。一方、本事業は体験活動をメインに実施しているため、各プログラムの計画や講師との打ち合せ、募集チラシ・参加者名簿の作成、準備物が必要になり、学校にかかる負担が大きい。そのため、来年度より陸上競技・子ども将棋教室以外の小学校開催については、すでに子ども会育成会と委託契約で実施されていた富合小学校と同様に、地域と連携を強化して委託契約団体を中心に実施する予定である。

・地域未来塾（かさい未来塾）の本年度参加申込者は、市全体で各学年とも、ほぼ同数の 50 名程度であった。夏季休業中の午前中部活動が終了した午後、静かで空調の効いた教室で学習ができ、また学習サポーターからのアドバイスもあるため、参加生徒からは好評である。来年度も各中学校と協議して調整を図り、環境を整えて生徒の期待に応えたい。

Ⅲ　育成支援

育成支援係は、青少年の健全育成のために、次の６つの事業を推進した。

① 青少年の健全育成に関すること
② 教育支援センター「ふれあいホーム」に関すること
③ 発達支援に関すること
④ 教育相談に関すること
⑤ 青少年育成に関すること
⑥ 市民の研修に関すること

１　健全育成

（１）加西市青少年補導委員連絡協議会

各小学校区の補導委員の中から選出された 12 名の理事が中心になって、委員相互の連絡を密にするとともに積極的な補導活動を推進している。

また、青少年の非行防止と健全育成を推進するため、健全育成関係団体（青少年健全育成連絡協議会、連合ＰＴＡ、防犯協会）との連携強化を図った。

期　日・場　所	内　　容
４/２(土)～３(日) 住吉神社他	北条節句祭り特別補導
４/15（金） センター	第１回理事会 ・定期総会について　・定期総会の準備と役割分担について ・委嘱状の交付と代表者の選出について ・知事表彰等について
５月 書面決議	総会（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
６/10（金） センター	第２回理事会 ・令和４年度定期総会の議決について ・北播磨補導委員統一活動について ・夏季休業中の巡回について
６/15（水） イオン加西北条店	女性協力員による特別補導
７/１（金） センター	第３回理事会 ・北播磨補導委員統一活動について ・加西サイサイ祭り特別補導活動について ・加西市青少年健全育成関係団体連絡会について
７/９（土） 北条町駅周辺市内各所	北播磨補導委員統一活動 ・量販店、公園等及び各校区における巡回補導活動
８/６(土)～７(日) 加西市役所周辺	第 45 回加西サイサイ祭り特別補導
９/９（金） センター	第４回理事会 ・北播磨統一活動実施結果について ・加西サイサイ祭り特別補導実施結果及び今後の課題について
９/22(木)～10/4(火) アスティア加西	いじめ防止運動作品展
10/26（水） 加古川市	第 55 回兵庫県青少年補導委員大会・研修会 ・知事表彰等授賞式

11/４（金） センター	第５回理事会 ・加西市青少年非行防止・健全育成キャンペーンについて ・「加西市ネット見守り隊」啓発のぼり等の購入・設置について ・知事感謝状、会長感謝状の授与について
12/３（土） 市内量販店	北播磨補導委員統一活動 加西市青少年非行防止・健全育成キャンペーン
12/14（水） イオン加西北条店	女性協力員による特別補導
１/13（金） センター	第６回理事会 ・加西市青少年非行防止・健全育成キャンペーン実施結果 ・令和４年度事業報告

ア　補導活動

各区長から推薦のあった補導委員 137 名、関係団体から推薦のあった女性協力員 10 名、高等学校長から推薦のあった２名、合計 149 名が補導委員として、青少年の非行防止、健全育成のために補導活動を実施した。コロナ感染者の増加などにより、通常の補導活動を行うことが難しい時期もあったが、各地区において少人数での補導活動を実施するなど工夫して行うことができた。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	累計
回数	67	63	60	76	66	60	60	49	66	38	605
人数	142	106	108	138	140	91	97	81	108	56	1067

イ　特別補導活動

（ア）北条節句まつり

４月２日（土）、３日（日）の２日間、住吉神社及びその周辺において補導活動を実施した。

（イ）第 45 回加西サイサイまつり

８月６日（土）、７日（日）の２日間、加西市役所及びその周辺において補導活動を実施した。

（ウ）北播磨統一活動

北播磨５市１町で組織する北播磨補導委員連絡協議会の活動として次の活動を行った。

a　第１回

７月９日（土）、加西警察署と連携して量販店、書店、コンビニ等各店の協力を得て非行防止のチラシ等の配布と巡回補導活動を実施した。

b　第２回

12 月３日（土）、青少年補導委員約 50 名が、啓発のぼりを掲出して、イオン加西北条店、アスティアかさい、マックスバリュ中野店などで買い物客等に対してチラシなどを配布して、キャンペーンを実施した。

ウ　女性協力員の活動

（ア）構成

女性協力員は、連合ＰＴＡ及び北条高校ＰＴＡ、連合婦人会、更正保護女性会から推薦のあった 10 名で構成する。

推薦団体		人　数
	学校名	
連合ＰＴＡ	北条中学校	1
	善防中学校	1
	加西中学校	1
	泉　中学校	1
北条高校ＰＴＡ		2
連合婦人会		2
更正保護女性会		2

（イ）活動内容

女性の特性を活かして青少年の非行防止と健全育成を推進する活動で、具体的には、児童生徒の登下校時の立ち番や計画的な広報車による巡回補導、日頃の地域における青少年の様子についての情報提供等を行った。

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	累計
回数	20	31	25	28	12	28	32	24	22	18	240

（ウ）合同補導活動

大型量販店における合同補導

６月 15 日（水）、12 月 14 日（水）午後６時より、イオン加西北条店において合同補導を実施した。

（２）加西市青少年健全育成連絡協議会

市内10地区(北条小校区と北条東小校区は合同)の健全育成会の会長による組織で、各地区活動の情報交換を行い、連携した青少年健全育成活動の推進を図ることを目的としている。各地区健全育成会の傘下には、ＰＴＡ、補導委員、防犯委員が所属しているため、各地区の不審者対応の中心となっている。

ア　活動内容

期　日・場　所	内　　容
7/14（木） センター	第１回協議会 ・令和４年度役員の選出 ・令和３年度の活動報告及び令和３年度の活動について ・各育成会の活動状況及び情報交換
8/17（水） センター	加西市青少年健全育成関係団体連絡会 加西市青少年健全育成関係団体合同役員研修会 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)
3/7（火） センター	第２回協議会 ・令和４年度活動の成果と課題について ・不審者情報及び不審者への対応について ・各育成会の活動状況及び情報交換

イ　「不審者注意」啓発のぼり旗の作成

不審者対応として、啓発のぼり旗を作成し、不審者が出現した地点の近くに設置し、通行する児童生徒をはじめ、一般市民への注意喚起・啓発を行った。

（３）加西市連合ＰＴＡ

家庭教育力の向上を図ることを目的として連合体を構成し、下記の活動を実施した。青少年健全育成関係団体と連携して補導活動や健全育成、ネットトラブル防止の啓発活動を行うとともに、「子ども見守り隊」活動や「子ども 110 番の家」の設置等で、児童生徒が安全で安心な生活を送れるように取り組んだ。

期　日・場　所	内　　容	参加数
４/21（木） 健康福祉会館	第１回会長会（新旧）並びに総会 ・総会決議 ・令和４年度の活動の確認 ・役員引継ぎ	33
６/４（土） 西在田小学校	第１回正副会長・役員会 （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）	―
７/７（木） 健康福祉会館	第２回会長会 ・ＰＴＣＡ活動支援事業 実践発表について ・奉仕作業について	18
11/10（木） 健康福祉会館	第３回会長会 ・新役員選出について ・第２回正副会長・役員会について ・広報紙コンクールについて	18
11/19（土） 姫路市市民会館	兵庫県ＰＴＡ中央大会・ＰＴＣＡ全県フォーラム ・基調講演 演題　「ＳＤＧｓって　なに」 講師　外務省総合外交政策局安全保障政策課 課長補佐　山田　基靖 ・パネルディスカッション	4
12 月	ＰＴＣＡ活動支援事業実践発表・講演会 実践発表　富合小 PTA･泉小 PTA･泉中 PTA （新型コロナウイルス感染拡大防止のため実践発表のみ紙面発表・講演会は中止）	―
１/26（木） 健康福祉会館	第４回会長会 ・新役員について ・次年度の行事について	18
１/21（土） 北条中学校	第２回正副会長・役員会 （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）	―
２/11（土） 三木市文化会館	東播磨・北播磨地区ＰＴＡ指導者研究集会 実践発表と講演 演題　「あーよかったな　あなたがいて」 講師　教育サポーター　仲島　正教	10
３月９日（木） 健康福祉会館	第５回会長会 ・次年度の活動テーマについて ・１年間の反省について	18

ア　ＰＴＣＡ活動支援事業

ＰＴＡを中核に、地域の住民（Ｃ：コミュニティ）の参画と協働によるＰＴＣＡ活動の充実にむけたＰＴＡの主体的な取組を支援し、家庭の教育力の向上を図るとともに、地域が支える学校づくりの充実や子どもたちの安全・安心を守る活動を支援することを目的としている。具体的な取組は、次のとおりである。

（ア）テーマ

子どもたちのため、今こそ動くとき

～家庭・学校・地域が一体となって～

（イ）実践発表・講演会

市内の３つのＰＴＡ（富合小・泉小・泉中）の実践を紙面発表で行った。講演会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

（ウ）家庭教育支援活動

ＰＴＡが中心となり、地域で子どもを育てる教育支援システムを構築していくために、各種団体との協力や連携が必要となる。そこで地域コミュニティづくりに向け、学習会等を計画し、実施した。

（エ）学校教育支援活動

ＰＴＡや学校支援ボランティアによる教育環境の整備や読み聞かせ、あいさつ運動などを行った。

（オ）子どもの安全・安心を守る取組

ＰＴＡや地域の協力による、「地域子ども見守り隊」活動の実施や、「子ども１１０番の家」の設置の依頼を行った。また、活動に必要な、のぼり旗・ベスト等を計画的に購入し、活動推進の一助としている。

イ　正副会長・役員会

年２回、各学校ＰＴＡ役員を中心に学習会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

（４）青少年健全育成関係団体連絡会

青少年の健全育成に関わる５団体(加西市青少年補導委員連絡協議会、加西市青少年健全育成連絡協議会、加西市連合ＰＴＡ、加西市防犯協会、加西市立総合教育センター）の連携強化を図り、巡回補導や育成事業の効果的な活動のための協議を行うとともに、インターネットトラブル防止のための啓発と研修を行う。

ア　合同役員研修

８月 17 日（水)、総合教育センターにて、青少年健全育成関係団体役員が、ＮＩＴ情報技術推進ネットワーク株式会社代表取締役の篠原嘉一氏を講師に招き、研修を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

イ　ネットトラブルから子どもを守る市民研修会

青少年健全育成関係団体の構成員及び一般市民を対象に、講師を招聘して研修会を開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

（５）生徒指導に関する取組

ア　生徒指導に関する現状

資料①～③は、問題行動件数やいじめ認知件数、不登校児童生徒数を示している。これらの変化から、次の取組が必要と考えらる。

・インターネットの事案も含むいじめの未然防止・早期対応・再発防止に向けた取組

・不登校児童生徒の支援

・発達に特性のある子どもの支援

そのため、次にあげる取組を実施し、学校・関係機関と連携し、相談支援体制の強化を図った。また保護者・地域の理解と協力を得られるよう啓発活動も行った。

加西市　児童生徒の問題行動件数及び不登校生数

【小学校】　（件数）

種別			H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
刑法犯行為	暴力行為	学校内	4	2	0	1	3	0	9	24	48	47
		学校外	0	1	0	0	1	0	0	0	4	3
	器物損壊		0	0	1	1	1	0	2	4	8	3
	恐喝		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	窃盗（万引き等）		8	5	8	7	5	4	2	4	3	2
	その他（放火等）		1	0	0	0	1	0	0	2	1	1
ぐ犯・不良行為	深夜はいかい		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家出		0	1	2	2	0	0	4	4	0	2
	飲酒		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	喫煙		1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他（不良交友等）		14	5	7	17	15	29	49	40	29	51
	けんか		1	2	0	2	2	3	14	16	8	9
無免許運転			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計			30	18	17	30	28	36	80	94	102	118

いじめ（件）	8	4	3	9	4	7	30	59	51	42
不登校（人）	5	9	4	5	6	10	8	7	15	27

【中学校】　（件数）

種別			H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
刑法犯行為	暴力行為	学校内	7	4	7	5	6	10	16	9	4	3
		学校外	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0
	器物損壊		4	3	2	0	4	2	1	2	3	1
	恐喝		1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	窃盗（万引き等）		10	9	4	2	10	7	4	6	3	1
	その他（放火等）		1	1	0	1	0	0	2	0	0	0
ぐ犯・不良行為	深夜はいかい		2	0	2	0	0	1	0	0	1	0
	家出		1	0	0	1	1	1	1	6	2	1
	飲酒		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	喫煙		9	15	4	3	0	0	0	1	0	0
	その他（不良交友等）		127	87	99	67	68	57	84	66	94	116
	けんか		17	11	12	6	16	14	20	8	11	12
無免許運転			1	0	0	1	1	0	0	0	0	0
合計			180	132	131	86	106	92	129	99	118	136

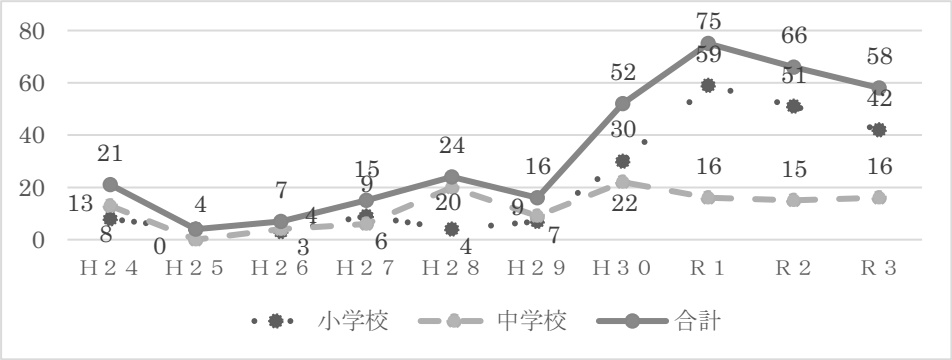
いじめ（件）	13	0	4	6	20	9	22	16	15	16
不登校（人）	59	41	42	44	53	60	46	44	48	59

資料②

いじめの認知件数の変化

【加西市の認知件数】

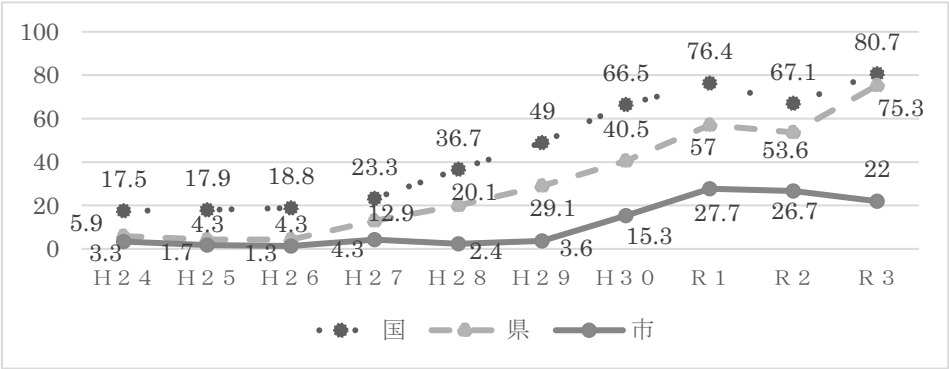
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３
小学校	8	4	3	9	4	7	30	59	51	42
中学校	13	0	4	6	20	9	22	16	15	16
合計	21	4	7	15	24	16	52	75	66	58



【1000 人当たりの認知件数の変化】

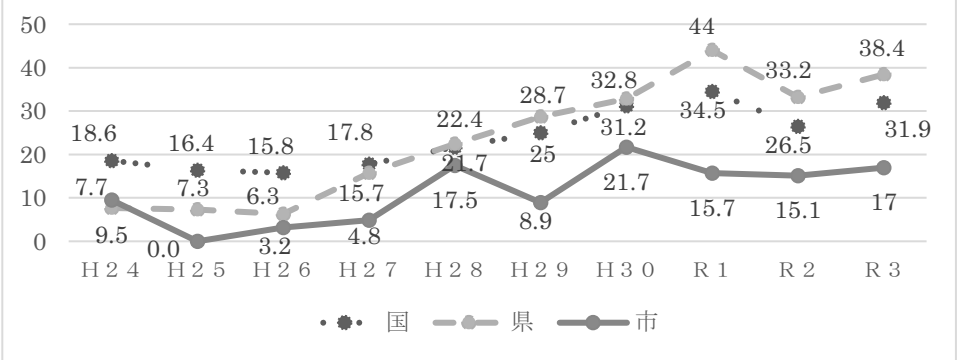
小学校

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３
全国	17.5	17.9	18.8	23.3	36.7	49	66.5	76.4	67.1	80.7
県	5.9	4.3	4.3	12.9	20.1	29.1	40.5	57	53.6	75.3
加西市	3.3	1.7	1.3	4.3	2.4	3.6	15.3	27.7	26.7	22



中学校

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３
全国	18.6	16.4	15.8	17.8	21.7	25	31.2	34.5	26.5	31.9
県	7.7	7.3	6.3	15.7	22.4	28.7	32.8	44	33.2	38.4
加西市	9.5	0	3.2	4.8	18	8.9	21.7	15.7	15.1	17

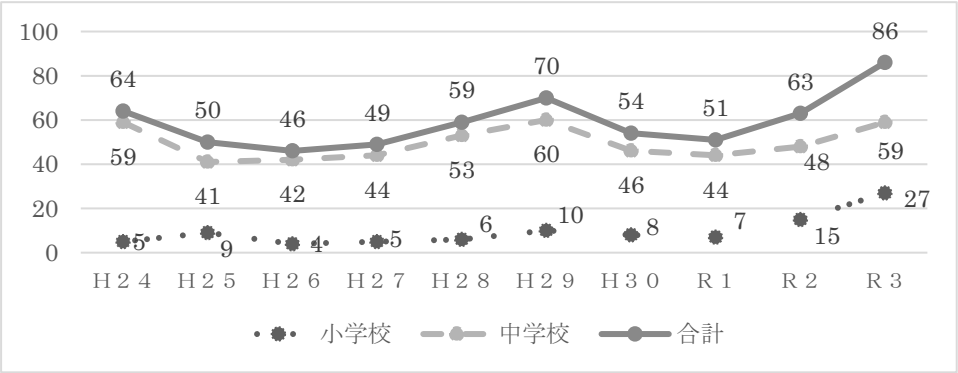


資料③

不登校児童生徒の変化

【加西市の不登校児童生徒数】

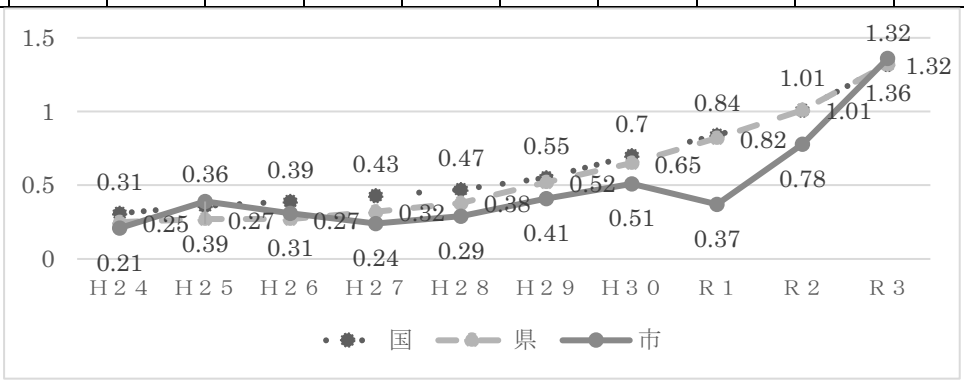
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３
小学校	5	9	4	5	6	10	8	7	15	27
中学校	59	41	42	44	53	60	46	44	48	59
合計	64	50	46	49	59	70	54	51	63	86



【不登校児童生徒の割合】

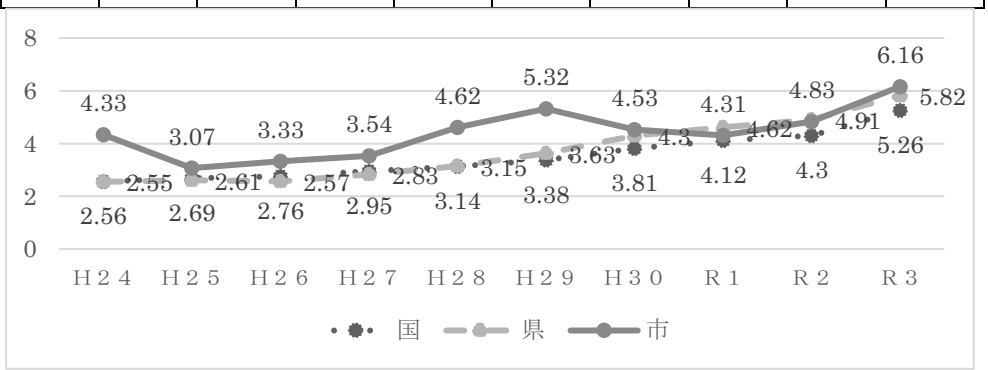
小学校

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３
全国	0.31	0.36	0.39	0.43	0.47	0.55	0.70	0.84	1.01	1.32
県	0.25	0.27	0.27	0.32	0.38	0.52	0.65	0.82	1.01	1.32
加西市	0.21	0.39	0.31	0.24	0.29	0.41	0.51	0.37	0.78	1.36



中学校

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R１	R２	R３
全国	2.56	2.69	2.76	2.95	3.14	3.38	3.81	4.12	4.30	5.26
県	2.55	2.61	2.57	2.83	3.15	3.63	4.30	4.62	4.91	5.82
加西市	4.33	3.07	3.33	3.54	4.62	5.32	4.53	4.31	4.83	6.16



イ　いじめ防止等に関する取組

（ア）加西市いじめ防止基本方針・加西市いじめ対応マニュアル

加西市いじめ対応マニュアルを、各種会議で周知し、未然防止・組織的対応・再発防止の取組について、学校・警察・市長部局と共有した。

（イ）加西市子どもいじめ問題対策審議会

加西市子どものいじめ防止等に関する条例によって、加西市いじめ防止基本方針に基づくいじめの防止等のための対策を実効的に行うようにするため、教育委員会の附属機関として、加西市子どもいじめ問題対策審議会を設置した。学識経験者をはじめ法律、医学、心理等の専門家に委員を委嘱した。

期　日・場　所	内　　容
7/20（水） センター	第１回加西市子どもいじめ問題対策審議会 ・審議会委員確認 ・加西市におけるいじめの現状とこれまでの取組について ・いじめ事案の対応検討
2/17（金） センター	第２回加西市子どもいじめ問題対策審議会 ・加西市におけるいじめの現状について ・いじめ対応の課題について

（ウ）いじめ対応加西市ネットワーク会議（加西市いじめ問題対策連絡協議会）

加西市いじめ防止基本方針に基づき、各学校と教育委員会、市長部局（人権推進課と地域福祉課)、加西警察署、加西市青少年補導委員連絡協議会等のいじめの防止等に関係する機関・団体が連携を図り、いじめ防止等の対策を効果的に推進するための会議として開催した。学校･警察･総合教育センター連絡会と兼ねて行った。

期　日・場　所	内　　容
7/11（月） センター	第１回いじめ対応加西市ネットワーク会議 ・いじめに関するアンケート調査の結果について ・加西市いじめ対応マニュアルの改訂の概要について ・いじめ防止運動作品募集について
12/5（月） センター	第２回いじめ対応加西市ネットワーク会議 ・いじめに関するアンケート調査の結果について ・いじめの認知・対応について再確認 ・関係機関でのいじめ対応について

（エ）いじめ防止運動

ａ　いじめ防止運動作品展の開催

児童生徒が、いじめに対して正しい認識をもち、いじめを防止しようとする意識の高揚を目的に開催した。夏休みに小・中学生に「標語」、「ポスター」を募集し、優秀作品を選考し表彰した。９月 22 日（木）～10 月４日（火）までアスティアかさい地域交流センターウォールギャラリーにて作品展を開催し､さらに小中特別支援学校において｢持ち回り展」を行った。

いじめ防止運動作品展応募数					
ポスターの部	小学５年	107 点	ポスターの部	中学１年	36 点
標語の部	小学６年	301 点	標語の部	中学２年	266 点
			ポスターの部	中学３年	38 点
応募総数　748 点					

b　啓発チラシの作成・配布

いじめ防止運動作品展で募集した標語やポスターの優秀作品を掲載したいじめ防止啓発チラシを作成し、12 月 3 日（土）の青少年非行防止・健全育成キャンペーンにおいて、市内 11 か所の量販店や書店等で買物客に配布し啓発活動を行った。各町においても、啓発チラシを回覧板にて回覧を行った。

c　青少年健全育成カレンダー・クリアファイルの作成・配布

啓発チラシと同じくいじめ防止運動作品展の優秀作品を掲載した青少年健全育成カレンダー・クリアファイルを作成し、各関係機関、施設、全児童生徒に配布した。

ウ　インターネット等の使用に関する取組

（ア）アンケート調査の実施

スマートフォンやゲーム機などインターネットに接続可能な機器の普及に伴い、児童生徒がネットトラブルや犯罪に巻き込まれる危険性が増し、さらに長時間利用によるインターネット依存・ゲーム依存の問題が発生している。そこで、市内小中学生のインターネット等の使用状況を把握し、学校、保護者及び児童生徒自らが対策を考えるための資料とするため、アンケート調査を実施した。

そして、調査結果を分析し、各小中特別支援学校に公表するとともに、現状に対しての各学校の取組を考え、対策を行うよう依頼した。

（イ）啓発リーフレットの作成

調査結果を分析し、各家庭における今後の対策について、リーフレットを作成し、小・中・特別支援学校全児童生徒の保護者及び教職員に配布した。各家庭には、インターネットやスマートフォン、ゲーム機について、家庭での親子の話し合いや使い方のルールづくりを啓発した。

（ウ）特別監視員によるサイバーパトロールと情報提供

月に１回センターにて特別監視員とともにサイバーパトロールを行うとともに最新の情報提供を受け、必要な対策を各小・中・特別支援学校に促した。早急に対応が必要な事案については、その都度連絡を取り合い対応した。

エ　学校サポートチーム

児童生徒の、いじめや不登校・問題行動等の未然防止及び早期対応・早期解決、相談体制の充実等を図るため、様々な専門性を有する相談員等が連携して学校への多面的な支援を行う学校サポートチームを設立している。

学校サポートチームの構成員は次のとおり

生徒指導担当指導主事、相談員（警察関係者ＯＢ）

スクールソーシャルワーカー（社会福祉担当）、

発達支援アドバイザー（臨床発達心理士）、学校経営アドバイザー（校長ＯＢ）

教育相談員（臨床心理士）、弁護士（必要に応じて）

スクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）は学校と市地域福祉課等との連携の窓口となり、家庭訪問や教育相談を行い、学校を支援した。発達支援アドバイザーは発達検査を行い、要請に応じて、学校にてアセスメントを行い、指導･助言をした。保護者・児童生徒の悩み相談については、臨床心理士が対応し、学校との連携を図った。教職員からの悩み相談を学校経営アドバイザーが行い、指導・助言を行った。

【対応回数】　令和５年１月末

発達支援アドバイザー	センターでの面接相談	411
	学校訪問（アセスメント･相談等）	99
	電話相談	44
	各種検査	59
	各機関との連携（教育支援委員会含）	10
スクールソーシャルワーカー	面接相談（関係機関含む）	1,423
	家庭訪問	164
	電話相談	191
	ケース会議	539

オ　学校・警察・総合教育センター連絡会

各小・中・特別支援学校及び高等学校生徒指導担当者による情報交換を行い、問題行動の未然防止と早期発見に努めた。加西警察署（刑事生活安全課と交通課）との情報共有により、関係機関の連携をより一層深めた。

期　日・場　所	内　　容
５/23（月） センター	第１回 ・青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・問題行動・いじめ・長期欠席等の報告について ・生徒指導に関する情報交換　・各中学校区小中連絡会
７/11（月） センター	第２回 ・青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・いじめ事案の対応について　・生徒指導に関する情報交換 ・各中学校区小中連絡会
９/５（月） センター	第３回 ・青少年の現状について（非行、交通事故、問題行動） ・いじめ対応の事例研修 ・インターネット等の使用についてのアンケート調査について ・生徒指導に関する情報交換　・各中学校区小中連絡会
12/５（月） センター	第４回 ・青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・令和３年度児童生徒の問題行動･不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の分析報告　・各中学校区小中連絡会
３/２（木） センター	第５回 ・青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・令和４年度の問題行動・不登校について ・生徒指導に関する情報交換　・各中学校区小中連絡会

カ　すまいるりんくネットワーク連絡会

総合教育センター、地域福祉課、健康課、学校教育課、こども未来課、基幹相談支援センターやすらぎで連絡会を開催した。毎月１回、情報交換を行い、不登校やひきこもり支援に対する方向性を共通理解し、これからの課題についても協議した。また、この連絡会で共通理解した内容を日々の連携に生かし、ＳＳＷを中心に密に連絡を取り合い、協力体制の強化を図った。

２　教育支援センター「ふれあいホーム」

（１）概要

（ハイキングの様子）

教育支援センター「ふれあいホーム」は、児童生徒が、体験を通して、自立する力を培い、自分自身や対人関係のあり方に自信を持ち、学校復帰や社会的自立を主なねらいとしている。そのために、教育相談員が児童生徒の心に寄りそい、自分で考える習慣を身につけ、コミュニケーション能力を高め、エネルギーを蓄えるよう支援を行った。また、日課表に従って過ごしていく中で、生活リズムの定着を図った。

教科学習の他、読書、スポーツ、清掃、花や野菜の栽培、製作、調理実習などの体験学習を大切にし、ハイキング、施設見学などの施設外活動も実施した。様々な体験活動を通し、物事を達成する充実感を味あわせ個々の自信につながるよう配慮し取り組んだ。

【本年度の在籍者の内訳】　(R5.1.現在)

	小学３年	中学１年	中学２年	中学３年	合計
男	1	3	2	1	7
女	0	2	4	3	9
計	1	5	6	4	１６

（２）活動内容

ア　指導内容

（ア）主な活動

期　日	内　　容	場　　所
4/11（月）	1学期開室開始	センター
4/22（金）	センター外活動（ハイキング）	フラワーセンター　※
4/28（木）	調理実習・会食会	センター
5/ 6（金）	散歩	玉丘史跡公園　※
6/16（木）	センター外活動（ハイキング）	東剣坂　青梅収穫体験
6/21（火）	調理実習・会食会	センター
7/12（火）	調理実習・会食会	センター　※
7/20（水）	ふれあいホーム終業式	センター
9/ 2（金）	ふれあいホーム始業式	センター
9/13（火）	調理実習・会食会	センター　※
9/30（金）	散歩	丸山総合公園
10/13（木）	調理実習・会食会	センター　※
10/19（水）	ヨガ教室体験	富田小学校
11/10（木）	センター外活動	小野市 あお陶遊館「ｱﾙﾃ」
11/11（金）	避難訓練（火事）	センター
11/22（火）	調理実習・会食会	センター　※
12/ 9（金）	散歩	玉丘史跡公園
12/13（火）	調理実習・会食会	センター　※
12/22（木）	ふれあいホーム終業式	センター
1/11（水）	ふれあいホーム始業式	センター
1/17（火）	地震学習	センター
1/18（水）	避難訓練（地震）	ｾﾝﾀｰ・ﾊｲﾂ第２公園運動場

1/24（火）	調理実習	センター
2/ 7（火）	調理実習	センター
2/22（水）	センター外活動	姫路城
3/ 6（月）	センター外活動（ハイキング）	いこいの村はりま
3/ 7（火）	調理実習	センター
3/22（水）	ふれあいホーム修了式	センター

※は、計画・準備をしたが実施できなかったもの

（ヨガ体験の様子）

イ　関係校・家庭及び関係機関との連携

（ア）小学校・中学校との連携

ａ　出席確認とふれあいホームでの通室生の様子連絡

毎日、通室生が在籍している学校と出席状況に関して連絡を取り合った。通室生の退室後には、ふれあいホームでのその日の様子を関係各校にメールで報告し、情報提供に努めた。

月末には通室生の在籍する学校に、通室生の出席状況と通室時の様子を文書で報告した。学校と情報の共有を図るとともに対応方法、支援策を協議し、連携を強化した。

ｂ　関係校との連絡会の実施

年２回、通室生の担任等と通室状況の振り返りと今後に向けての学校の方針や思いを聞き、支援のあり方を話し合った。

学校を主軸とする通室生への対応を協議するため担任、指導主事、発達支援アドバイザー、ＳＳＷ、教育相談員とで情報交換をし、現状や今後の取組について協議した。

（サツマイモ掘りの様子）

（イ）家庭との連携

ａ　入室前の児童生徒及び保護者への事前指導

希望者には、事前に担任と相談した後、保護者とともに来所してもらい、ふれあいホームのねらいや方針、活動内容等の説明を行い見学してもらった。その後、学校や保護者と相談し、５日間の体験入室をした。体験入室終了後、保護者が学校を通じて申し込み、受け入れを行った。

ｂ　入室後の保護者との連携

通室生で気になることがあれば保護者に密に連絡を取り確認を行った。また欠席時の電話連絡や送迎に来所した際に通室生の状況を確認するとともに、相談に対応し保護者との情報交換と今後の支援についての相談を丁寧に行った。

ｃ　個別教育相談の実施

希望者には関係校との連絡会の内容をもとに、通室生の保護者あるいは本人を交えて行った。通室時の様子を伝えるとともに、通室生の思いや保護者の願いを受け止め、学校復帰、社会的自立や卒業後のことを見据えた対応や支援のあり方を話し合った。

ｄ　不登校の子どもを持つ「親の会」の開催

８月 29 日（月）、「思春期の子どもの心について」センターの臨床心理士から話を聞いた。その後、保護者の思いを話し合う場として開催した。参加者が少人数であったため保護者自身の思いを十分に出せる場となった。その際には臨床心理士より専門的な助言を行った。

（ウ）学校サポートチームの活用

より良い支援を行うために、専門的な意見や支援の方法について、臨床心理士や発達支援アドバイザーと相談し、支援にあたった。また、ＳＳＷと密に連絡を取り、通室生の様子を共有し、ふれあいホーム・学校・家庭での連携した支援を図った。

（陶芸体験の様子）

（３）成果と課題

今年度は、初めて見学の後、5日間体験するという制度を設けた。イメージが難しい通室生もいるため、実際に体験してみることでふれあいホームでの活動や過ごし方に慣れることが目的である。連続して体験する者や、間をあけて体験する者と様々であった。過ごし方を考えながら体験し、入室へとつながった通室生が多かった。また体験日数を５日間と設定しているがよりよい設定期間を考えていく必要がある。

また感染対策のもと、近隣小学校や施設を利用して「ヨガ教室体験」「陶芸体験」を実施した。センター以外の場所へ行き、体を動かしたりオリジナルの物を作ったりすることで、心も体もリフレッシュでき、通室生の生き生きとした姿が見られた。また、センター外活動の時には、公共交通機関を利用した。公共交通機関利用が初めての通室生は、高校進学に向けて自分だけで動ける活動範囲が広がった、と喜ぶ姿も見られた。

そして昨年に続き、月目標を設定させた。以前はなかなか目標が立てられなかった通室生であったが、毎月設定することにより目標が明確になっていった。また自分自身を振り返り、日頃から目標を意識した行動をとる様子も見られた。それぞれが目標に向けて頑張って取り組んでいた。

学校に登校することもふれあいホームに通室することも難しい通室生が数多くいる。中には特別な支援を必要としている通室生も存在し、その人数も増加していると思われる。通室生が一人でも多く学校復帰や社会的自立に向けて前向きに取り組んでいけるよう、専門性を高め、個々のニーズに寄り添いながら、学校、関係機関とより一層連携をしながら支援をしていく必要性がある。

（センター外活動の様子）

3　発達支援

（1）発達相談

【発達相談】

令和５年１月末（件）

		面談相談	電話相談	計
合　計		411	44	455
対象者別	こども園	40	2	42
	小学校	298	15	313
	中学校	54	23	77
	高等学校	2	4	6
	その他	17	0	17
相談者別	保護者	211	25	236
	教師	88	11	99
	医療・福祉	4	6	10
	本人	105	0	105
	その他	3	2	5
主訴	検査	57	0	57
	対人関係	48	15	63
	しつけ・子育て	121	3	124
	親子関係	23	1	24
	指導の手立て	126	22	148
	進路・学習	35	3	38
	その他	1	0	1

発達相談は、年々増加している。児童生徒の教育相談は、「指導の手立て」と「進路・学習」の相談が多く、次いで、「子育て」「親子関係」「対人関係」に関する相談件数が多くなっている。これは、発達に関する知識が以前よりも広く普及し、日常生活や学習面でのつまずきの要因を発達障害と関連づけての相談事例が増えているものと考えられる。

また、教職員からは、特異的な行動や学習面においての、具体的な指導や手立てについての相談も増加傾向にある。近年の特徴として、不登校になるＡＳＤの児童も増加している。「診断を受けたけれど、対応がわからない」という保護者が多くいる。一人一人の子どもの特性を一緒に考え、対応を教示することも相談内容の中ではウェイトが高い。そのため、ＡＳＤの保護者を対象とした学習会（年４回）を開催し、ＡＳＤの理解と対応を考える機会を設けた。教育相談では、保護者のカウンセリングを行うとともに、子どもの特性を保護者とともに考え、それに応じた関わり方や家庭での環境調整を提案している。

（2）発達検査

【実施状況】

令和５年１月末(件)

対象者	こども園	小学生	中学生	合　計	前年同期
検　査	0	52	5	57	78

子どもの行動特性や学習スタイル、能力面を客観的に把握し、発達状態について伝えることを目的に発達検査を実施した。検査状況を保護者や学校関係者に報告し、教育支援委員会審査の資料や発達支援ファイルの作成、通級指導教室や個別指導での対応など、児童生徒が適した指導のもと安心して学べる学習環境につながるよう共通理解を図った。必要に応じて医療機関と連携を図った。小・中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒が大幅に増加したほか、通級教室で授業を受ける必要性があると思われる児童生徒も倍増するなど、特別支援教育の理解の深まりを背景に、個々の特性に応じた専門性の高い教育を受けさせたいというニーズが高まっている状況がうかがえた。

（3）発達支援プログラム

学校生活及び日常生活において、不適応、またはそれに近い状態の児童に対して、よりよく適応できるように、行動特性や学習面など発達状態を把握し、発達を促す学習の場として小集団トレーニングを実施した。また、保護者や教職員と共通理解を深めるために、保護者面談や教職員指導者連絡会、発達段階に応じた適切なかかわりを習得するために研修会を開

催した。

ア　小集団トレーニング（のべ 55 回　1 集団につき 13 回／年）

トレーニングは、以下のような流れで実施した。

・個々の実態を把握する。
・実態から指導すべき課題を見つけ、指導目標を立てる。
・具体的な指導内容を設定する。
・グループにてトレーニングを実施する。
・年度末に評価を行い、次年度へつなぐ。

また、発達支援プログラムプランを作成し、保護者・学校と共有している。

今年度は、以下の３グループでトレーニングを行った。

（ア）ソーシャルコミュニケーションスキル

集団活動やコミュニケーションに課題がある児童に対して、社会性・行動面及び対人関係におけるスキルや対応・知識を身につけることを目指す。

【指導手順】

コーチング　→　モデリング　→　リハーサル　→　フィードバック

【指導内容】

・注意、集中力　・折り合いの言葉と感情コントロール
・協力ゲーム　・仲間づくり　等

（イ）アカデミックスキル

読み書きの苦手な児童に対して､アセスメントを行い､つまずきの要因を把握して、学習の基礎となる読み書きの力を高める。

【全体の流れ】

アセスメント　⇒　つまずきの要因・能力の現状の把握　⇒　目標設定　⇒　支援内容の決定　⇒　評価

a　アセスメント

・「Ｒｅｙ－Ｏｓｔｅｒｒｉｅｔｈ複雑図形」
課題への集中力、部分に対する注意、構成能力、図形を組織する能力を見る。
・「ＬＣＳＡ」（言語・コミュニケーション発達スケール）
言語・コミュニケーションの発達を客観的に評価する。
・「ＳＴＲＡＷ－Ｒ」（読み書きスクリーニング検査）
音読と書き取り（聴写）の正確性、音読の流暢性（速読）、計算等について検査する。

b　つまずきの要因・能力の現状把握

・検査結果から、弱点や問題点を見い出し現状を把握する。

c　目標・支援内容の設定

・現状に合わせて目標を設定し、支援内容を決定する。

【目標（例）】
・簡単な文章や指示を聞いて、４つのキーワードをメモすることができる。
・５行程度の文章を聞いて、内容に関する質問に正しく答えることができる。
【支援内容（例）】
・１文の中から指示に合う言葉をみつけさせる。
その後、短い文章の中から２つ～４つのキーワードを見つける練習をさせる。
・注意して聞く要因を示した後、文章を聞き、質問に答えることで、内容を理解させる。

（ウ）ミュージックセラピー

学習面や行動面に困難を示す児童に対して、音やリズムを通して協調性を養い集中力と注意力を高める。

【音楽療法の定義】
・音楽の様々な力を利用して、対象者が抱えている困りごとの改善を促し、よりよい生活を送ることができるように心身の発達を援助する療法。
・対象が支援を必要とする児童の場合、音楽そのものに癒しの効果を求めるのではなく、学習活動を促すためのツールのひとつとして音楽を活用する。
・聴覚と視覚の統合、リズム模倣、音楽を媒体とした文字や数概念の学習、集中力の訓練など、目的をはっきりとさせて音楽を使用する。
【活動内容（例）】
・リトミック
・Go & STOP（即時反応・音楽を聞いて、体を動かしたり、止めたりする。）
・表現力
・楽器合奏

イ　教職員研修会

子どもや保護者への適切な支援、具体的な指導力向上を目指して、研修会を実施した。
テーマ　「思春期における自己認知支援―成人期・就労期を見据えてー」
講　師　ひょうご発達障害者支援センター　クローバー加西ブランチ
相談支援員　川野　みか

ウ　教職員指導者連絡会

学校と連携した支援の構築を目指して、プログラム参加児童在籍校ごとに連絡会を実施した。発達支援プログラムのねらいと内容を共有し、参加児童について情報交換を行った。

エ　保護者研修会

保護者が子どもをより理解し、望ましい関わり方を習得するために、研修会を開催した。
テーマ　「思春期に向けての自己認知支援」
講　師　ひょうご発達障害者支援センター　クローバー加西ブランチ
相談支援員　川野　みか

オ　ペアレントトレーニング

保護者が子どもをより理解し、望ましい関わり方ができるようにワークショップを中心にトレーニングを実施した。

テーマ　「子どもの好ましい行動を引き出すための関わり方」

講　師　　医療福祉センターきずな

臨床心理士　岡井　麻理子

カ　保護者面談

保護者と指導者が子どもの１年間の様子や成長について共通理解を図り、今後の成長課題を考えるために、保護者面談を実施した。

（４）関係機関との連携協働活動

継続的に、保健、福祉、医療、教育関係機関との協働・連携会議を通して、専門的な支援情報を共有し、多様な教育的ニーズに応じた発達支援の充実を目指し、連携を図った。

ア　教育支援委員会

特別な支援が求められる幼児、児童生徒への就学指導において、個々の状態に応じた支援環境が整えられるように、心身の状態、心理検査の結果や集団参加の状況など生活面や行動面の特性について、専門的な意見や情報提供を行った。

イ　保健・医療・福祉・教育機関連携ケース会議

保健・医療・福祉・教育・就労など、多様な関係機関の連携体制を整え、蓄積された情報を共有し、ライフステージを通し切れ目のない支援につながるよう、適切なコーディネートを行った。今年度、発達の程度は軽度あるいは正常範囲であって行動障害または精神的問題を起こしている事例が前年度より目立つ傾向にあった。２次障害を起こして学校・家庭生活の維持が困難となっている幼児、児童生徒の担任及び保護者に対して、指導・支援対応について医療・福祉機関・その他の機関との連携を行った。

ウ　学校生活支援教員連絡会

各小中学校に在籍する児童生徒の学級での適応状態について、学校生活支援に携わる教職員と共通理解を図り、具体的な関わりや支援のあり方を検討した。

エ　こども園特別支援担当者会

個別的対応が必要とされる幼児に関わる関係職員と集団生活状態や成長課題を共有し、指導方法などについて理解を図り、具体的な指導につながる手立て等の助言提案を行った。

（５）成果と課題

教育相談では、発達特性が明確でなく診断が難しい事例の相談増加に加え、養育力の困難さを抱える家庭など、課題が多様化・複雑化して的確に応えることが難しくなっている。そのため、支援を充実させるよう医療・福祉関係機関との連携の強化を図った。特に保護者に対して、子どもの特徴を一緒に考え、どのように対応するか心理的ケアを含めて行った。その家族ごとのアセスメントを行い、ライフステージに沿って対応を行った。また、保護者学習会を通して、保護者の心理教育の場を提供した。保護者の横の繋がりを通し、保護者が子どもへの理解や対応に前向きに向き合う機会になった。今後も、保護者の心理教育の場を充実させることが必要であると思われる。

学校園訪問においては、教職員の発達に関わる意識が高くなり、依頼が増えている。気楽に教職員と面談することで、教職員が子どもたちに適切に関われるよう手立ての提案や保護者等との連携がしやすくなった。また、早期に支援に繋げるよう教職員や保護者と支援の在

り方について検討することができた。

発達支援プログラムでは、教職員・指導者連絡会を今年度初めて学校ごとに開催することができた。小集団トレーニングのねらいや内容を伝え、トレーニングで取り組んでいる具体的な支援の方法を紹介することができた。また、「個」へのアプローチとして個に応じたプログラムを小集団において提供したが、学校や家庭でのはっきりした行動変容につながらなかった。今後の課題として、トレーニング内容や実施方法を検討し、学校や家庭との連携・支援方法を深める必要性がある。

検査においては、発達課題の背景をアセスメントし、その結果に応じた見立てと手立てを教職員と保護者とで確認し、家庭と学校が連携して支援・指導できるよう共通理解を深めた。

今後の課題として、問題行動及び反社会的行動、不登校などに発達障害等の要因が深く関わっている可能性があることから、引き続き、早期発見と早期からの支援や配慮に重点を置く必要性がある。また、相談体制を見直しながら発達の節目をつなげる移行支援を充実させるとともに、保護者の心理教育及び理解促進を図り、縦断的視点から将来を見据えた支援活動を関係する機関とともに横断的に取り組む必要性がある。

児童生徒が地域で持てる力を発揮し、ありのままの自分で豊かな暮らしができるよう、縦断的且つ横断的に発達支援を検討することが重要であると思われる。

4　教育相談

（１）相談窓口

センターでは、教育相談窓口の充実を図り、いじめや不登校、子育て、進路・学習など様々な教育に関する相談を受けることができるように、下記のとおり相談窓口を開設した。また、悩み相談電話を開設し、電話による相談も受け付けている。

種　　類	内　　容	曜　　日	時　　間	予約
通常教育相談	教育相談員による相談	月～金曜日	9:00～17:00	不要
特別教育相談	臨床心理士による教育相談	毎週木曜日 第１，３金曜日	10:00～17:00	要
夜間教育相談	臨床心理士による教育相談	原則毎週月・金曜日	18:30～20:30	要
発達支援相談	臨床発達心理士による教育相談	月～金曜日	9:00～16:00	要

（２）相談受理状況

	区分	項　　目	令和４年１月末	令和３年１月末	前年比較
相談内容	電話	1 不登校	313	181	+132
		2 家庭・子育て	138	92	+46
		3 発達障害等	70	87	−17
	面接	1 不登校	1,192	793	+399
		2 発達障害等	479	518	−39
		3 心身の健康・保健	309	121	+188
相談対象者	電話	1 中学生	314	213	+101
		2 小学生	296	225	+71
		3 高校生	13	20	−7
	面接	1 中学生	1,331	937	+394
		2 小学生	976	824	+152
		3 幼児	51	57	−6
相談者	電話	1 教師	233	138	+95
		2 その他	229	177	+52
		3保護者	163	130	+33
	面接	1 教師	1,242	733	+509
		2 保護者	429	353	+76
		3 中学生	362	422	−60
相談件数	電話		641	461	+180
	面接		2,413	1,846	+567
	総数		3,044	2,307	+747

相談件数が電話、面接ともに大幅に増加した。これは、コロナ禍における影響も考えられるが、ＳＳＷ，発達支援アドバイザー、臨床心理士等による相談が認知されたとともに、令和３年度よりＳＳＷが２名体制になったことや令和４年度より臨床心理士の対応曜日を増やしたことにより、より多くの相談への対応が可能になった成果とも考えられる。相談内容については、「不登校」「心身の健康・保健」が大幅に増加している。相談者においては、面接で「教師」が大幅に増加した。不登校児童生徒や発達に特性のある児童のため、ＳＳＷや発達支援アドバイザーが学校と密に連絡をとり、連携して支援にあたることができたと考えられる。

（３）加西市内相談機関連絡会

市内の相談機関の担当者が、事業内容や取組について共通理解を深め、相談のあり方と支援・連携についてそれぞれの立場から協議するとともに、今後の課題について話し合った。

・日　時　　第１回：令和４年６月 13 日（月）15:00～16:30
　　第２回：令和５年２月　６日（月）15:00～16:30
・場　所　　加西市立総合教育センター
・参加者　　こども未来課(ＮＰＯ法人まーぶるキッズ、ぜんぼうキッズ、ほくぶキッズ)、ふるさと創造課(消費生活センター)、総合教育センター

（４）成果と課題

教育相談や学校支援に関わる職員が、情報交換･共有し、連携しながら教育相談を行うとができている。また、学校との連絡を密にし、情報交換し、教育活動を支援できている。教育相談をきっかけに地域福祉課等の関係機関に繋ぎ、支援の輪が広がってきている。

一方で、支援が必要だと考えられる事案でありながら、相談者や相談対象者に困り感がなかったり、相談者と支援について合意できなかったりして、適切な支援に繋げられないケースが存在する。

コロナ禍は落ち着きを見せ始めたが、家庭的課題を抱える児童生徒が増加しており、ストレスを感じ、集団への適応の難しさを感じている子どもがいる。また、不登校や発達支援等、様々な支援を必要としている家庭も増加している。今後も継続して、学校を中心とし、関係機関との連携をより密にし、より効果的な支援の方策を探り、相談者や相談対象者を支援していきたいと考えている。

５　青少年育成

（１）加西市子ども会育成連絡協議会

本協議会は、各小学校区子ども会相互の連絡調整や情報交換、地域を基盤とした子どもたちの健全育成や育成者の支援・助成等を目的に理事会を開催し、オセロ大会、球技大会、「雪」体験ツアーなどの事業を実施し、子ども会活動の連携や活性化を図っている。本年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各事業が中止となっている。

期日・場所	内　容	参加数
3/11（金） 市民会館２Ｆ美術教室	第１回理事会（新旧合同理事会） ・役割分担　　・事業計画　　・総会に向けて	
4/8（金） 市民会館大ホール	総会 （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止） （書面決議）	－
4/14（木） 市民会館２Ｆ美術教室	第２回理事会 ・全国子ども会安全共済について ・「子どもの手による子ども会支援事業」について	13
6/22（水） 社総合庁舎	北播磨地区子ども会育成連絡協議会総会	2
7/7（木） センター	第３回理事会 ・「子どもの手による子ども会支援事業」について ・オセロ大会・親善球技大会について	13
8/7（日） 善防公民館	第 10 回加西市子ども会オセロ大会 （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）	－
9/11（日） コミセンおおべ	第 12 回北播磨地区子ども会議 「アクティブラーニングで世界を知ろう！」	10
9/15（木） センター	第４回理事会 ・「雪」体験ツアーについて	13
10/1（土） ぜんぼうｸﾞﾘｰﾝﾊﾟｰｸ	第４５回加西市子ども会親善球技大会 （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）	－
12/8（木） センター	第５回理事会 ・「雪」体験ツアーについて	12
1/19（木） センター	第６回理事会 ・「雪」体験ツアーについて ・次年度の事業計画について	12
2/4（土） ハチ北高原スキー場	「雪」体験ツアー （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）	－
2/14（火） センター	第７回理事会 ・次年度会長および役員の選出　・総会について	13

（２）地域ふれあい事業　（かさいキッズふれあい事業）

校区ごとに、小中学生を中心とした青少年の異年齢交流、異世代交流による地域活動を促し、思いやりの心、豊かな創造性や個性さらには積極的な社会参加の態度を培うことを目的としている。地域における団体や住民と連携を図りながら青少年活動振興の基盤づくりを進め、青少年活動を核とした地域社会の活性化を進めている。

期日・場所	内　　容
4/7(木) センター	実務者会議 委託事業の目的、内容、手続き等
市内各小学校区で 右記の行事を計画	なわとび教室、ﾄﾞｯｼﾞﾎﾞｰﾙ大会、七夕祭り、夏祭り、秋祭り、三世代ふれあい活動、ｸﾘｽﾏｽ会、ご来光の集い、とんど、昔の遊び大会、なわとび大会、ﾗｼﾞｵ体操、夜の学校で遊ぼう、ｸﾘｰﾝｷｬﾝﾍﾟｰﾝ、音楽会、桃子野ふれあい教室、６年生を送る会、等

（３）加西市青少年団体連絡協議会

本協議会は、４つの青少年団体（ジュニアリーダークラブ、ボーイスカウト、空手、Ｆｌｅｐｓ）の指導者によって構成され、「デイキャンプ（日帰りキャンプ）」や「新春のつどい」などの活動を通して、青少年の健全育成と青少年活動の活性化を図っている。

期日・場所	内　容	参加数
4/13（水） センター	第１会理事会 ・総会に向けて	5
5/25（水） 市民会館１Ｆ会議室	総会　令和３年度事業報告、会計報告 令和４年度役員選出、事業計画、予算 第２回理事会　・デイキャンプに向けて	6
6/15（水） 市民会館１Ｆ会議室	第３回理事会 ・救急救命講習会について ・デイキャンプについて	4
6/26（日） 加西消防署	普通救命講習会	4
7/13（水） 市民会館１Ｆ会議室	第４回理事会 ・デイキャンプについて タイムテーブル、役割分担、資材準備、買い出し	6
8/20（土） オークタウン加西	デイキャンプ ・竹水鉄砲づくり ・野外料理　・アルミランタンづくり	19
9/21（水） 市民会館１Ｆ会議室	第５回理事会 ・デイキャンプの反省 ・新春のつどいに向けて	5
10/12（水） 市民会館１Ｆ会議室	第６回理事会 ・新春のつどいに向けて チラシ案の作成、開催までのタイムテーブル	4
10/26（水） 市民会館１Ｆ会議室	第７回理事会 ・新春のつどいに向けて 申請書類・準備物の確認	4
11/16（水） 市民会館１Ｆ会議室	第８回理事会 ・新春のつどいに向けて 詳細な準備作業日程	4
11/27（日） 小田製材、グリム、栄光社	協賛企業への挨拶回り	1
12/10（土） センター、いこいの村周辺 健康福祉会館	ｸﾘｰﾝｷｬﾝﾍﾟｰﾝ「ポイ捨て撲滅大作戦」 門松用竹切り 「あなたが選ぶ２０２３年の漢字」選考会	6

12/24（土） センター,ｵｰｸﾀｳﾝ加西 鎮岩倉庫,市民会館	新春のつどい資材借受、新春のつどい準備	5
12/31（土） センター ｱﾗｼﾞﾝｽﾀｼﾞｱﾑ東側駐車場	新春のつどい準備 ・門松製作、会場準備	15
1／1（日） ｱﾗｼﾞﾝｽﾀｼﾞｱﾑ東側駐車場	「新春のつどい 2023」	370
1／7（土） センター	新春のつどい資材返却	4
1/15（日） 玉野町中池駐車場	新春のつどい「とんど」	14
2/15（水） 市民会館１Ｆ会議室	第９回理事会 ・事業報告、会計報告について	6

ア　デイキャンプ

オークタウン加西で小学３年生～６年生の児童 19 名が参加し、竹水鉄砲づくり、野外料理、アルミランタンづくりを体験した。大きな怪我やトラブルもなく安全に終えることができたが、企画のマンネリ化や人手不足などの課題が残る。

イ　新春のつどい

今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、アラジンスタジアム東側駐車場を拠点にランドマーク展望台から初日の出を拝む、従来の新春のつどいを行った。

炊き出しは中止したが､キッチンカーを誘致し、お年玉抽選会と 2023 年の漢字発表などの交流会を実施した。370 名の参加者が新年に決意を新たにした。

ウ　とんど焼き

玉野町中池駐車場で、新春のつどいで使用した特大の門松や、市民が持ち寄った正月飾り・書初めなどを焚き上げ、一年間の家内安全・無病息災を願った。

（４）青年連絡会えんどれす

「加西サイサイまつり」の「お化け屋敷大作戦」を開催することにより、世代を超えた地域のふれあいの場を提供し地域の活性化を図るとともに、青年が率先して町おこしに取り組み青年層の活性化を図ることを目的に活動している。今年度の「加西サイサイまつり」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため､「お化け屋敷大作戦」は実施せず、えんどれすの活動は休止のままである。

2022

参 考 資 料

加西市立総合教育センター

教育講演会

1　テーマ

僕たちにはキラキラする義務などない

2　講　師

お笑いタレント　髭男爵　　山田ルイ 53 世

3　内　容

（1）名門中学への進学と引きこもりのきっかけ

（2）６年間の不登校の経験

（3）不登校問題

（4）生き方

中堅教員研修講座

1　テーマ

加西っ子の未来を拓く教師を目指して

2　講　師

加西市教育委員会　学校教育課

課長　　安富　重則

3　内　容

（1）子どもたちの未来を拓く教師たちへ

（2）次世代人材の育成をめざして

（3）１０年後、こんな教師でありたい･･･

・教師として大切にしたいもの

若手教員研修講座

1　テーマ

心がまえ　～授業づくりを通して～

2　講　師

元丹波市立学校長　　足立　宏規

3　内　容

（1）教員としてのバックボーン

（2）授業のベース

（3）３つの資質・能力

（4）授業参観をして気に

なったこと

（5）授業づくり（演習）

ベテラン教諭研修講座

1　テーマ

豊かな経験を共通財産に！

2　講　師

元明石市立小学校長　　西口　隆

3　内　容

（1）改めて先生という職業

（2）今後の生活設計

（3）ベテラン教員の役割

（4）自分が心がけたこと

教育経営講座

1　テーマ

人材育成術（チーム・組織を作っていく

リーダーのマインドセット）

2　講　師

(株)吉本・オガール地方創生アカデミー

運営責任者　　三枝　大地

3　内　容

（1）本人が育成の当事者になれるかどうか

（2）失敗は成功のチャンス・成功への階段

（3）コーチングとは

（4）チーム作り、組織作り

（5）主体的な人材はどうすれば育つか

事務職員研修講座

1　テーマ

年末調整と確定申告

2　講　師

金沢公認会計士事務所

税理士　　金沢　李佳

3　内　容

（1）年末調整

・対象

・令和２年度改正

・住宅ローン控除

（2）確定申告

・所得の種類

・公的年金

・医療費控除等

管理職研修講座

1　テーマ

教職員が育つ学校づくり

～校内ＯＪＴの考え方と進め方～

2　講　師

兵庫教育大学大学院

特任教授　　浅野　良一

3　内　容

（1）教員育成のめざす方向

（2）教職員の職能開発の考え方

（3）動機づけの各種理論

（4）校内における人材育成の進め方

（5）自校で実践できる育成方策のアイデア

研究推進実践講座

1　テーマ

３Ｃ人材育成に向けた研究推進のあり方

2　講　師

加西市教育委員会　学校教育課

専門推進員　　繁中　一也

3　内　容

（1）研推の仕事

（2）求められる力　組織マネジメント

（3）研推に求めたいこと

学級経営講座

1　テーマ

生徒の心を育み、ともに生きる教師を目指して

2　講　師

元加西市立中学校主幹教諭　　三船　美里

3　内　容

（1）学級担任が

「すべきこと」

「してはいけないこと」

（2）学級風土をつくる

（3）目指す学級像

・学級目標

・ＳＨＲ

・終わりの会

授業改善実践講座①②

1　テーマ

学習目標を具現化する授業づくり

2　講　師

姫路大学　教授　　長谷　浩也

3　内　容

第１回

（1）授業の根幹についての講義（長谷教授）

（2）グループワーク（指導案の改善策）

第２回　模擬授業と事後研修

（1）模擬授業　善防中学校　　平田教諭

（2）模擬授業　富合小学校　　髙嶋教諭

加西っ子の学びセミナー

1　テーマ

全国学力・学習状況調査の分析・考察

及び各校の取組

2　講　師

加西市教育委員会　学校教育課

指導主事　　國野　大樹

3　内　容

（1）全国学力・学習状況調査結果の分析・考察

（2）授業改善

・学力向上をねらいとした各校の取組

（3）３Ｃ人材育成による確かな学力の育成

生徒指導講座

1　テーマ

いじめの対応についての理解を深める

2　講　師

加西市教育委員会　総合教育センター

指導主事　　稲岡　信裕

3　内　容

（1）いじめの認知と現状

（2）重大事態について

（3）ネットとの関係

（4）未然防止に向けて

情報モラル教育研修講座

1　テーマ

スマホ時代の子どもたちのために（１人１台端末時代の教師が知っておきたいこと）

～被害者にも加害者にもしない～

2　講　師

一般社団法人ソーシャルメディア研究会

チーフ技術指導員　　竹内　義博

3　内　容

（1）今のネットの特性と問題

（2）ネットで起きている問題

（3）子どもたちの話し合いのために

（4）対策

ＩＣＴ活用による授業改善講座（1）

1　テーマ

教わる授業から学び取る授業へ

2　講　師

熊本大学大学院教育学研究科

特任教授　　前田　康裕

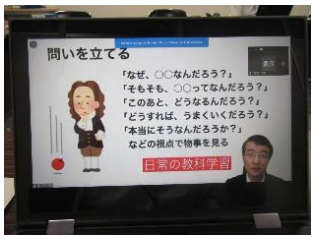
3　内　容

（1）そもそも学ぶって何？

（2）問いを立てる　振り返る　学びを交流する

（3）メタ認知力

（4）主体的な学び



教科指導講座（国語）（１）

1　テーマ

国語科授業革命

～「発問－応答」型から「参加－構成」型へ～

2　講　師

元加西市立小学校主幹教諭　　服部　英雄

3　内　容

（1）国語科の授業方法を改革する

・「発問－応答」型からの脱却

・自分なりの考え（読み）を持たせる

（2）新たな指導の工夫について

・「うながす」「つなぐ」「もどす」「ゆさぶる」

・「問いかける」「せまる」「意味/価値づける」

教科指導講座（国語）（２）

1　テーマ

主体的・対話的な学びを通して読みを深める授業の工夫について

2　講　師

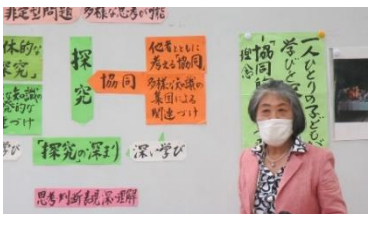
元同志社大学文学部講師　　遠藤　瑛子

3　内　容

（1）協同的探究学習の理念

（2）協同学習の基本的構成要素

（3）演習　リテラチャー



教科指導講座（図工・美術）

1　テーマ

廃材を使った生き物づくり

2　講　師

一般社団法人示現会

兵庫支部長　　高見　雅博

3　内　容

（1）材料の色や形のおもしろさを生かして、想像を膨らませて作ろう

・材料に適した接着剤

・安全で正しい道具の使い方

（2）作品の制作

（3）作品の発表会

教科指導講座（理科）

1　テーマ

理科教育の授業支援等において実践していること

2　講　師

元加西市立中学校教諭　　永長　英夫

3　内　容

（1）公開授業「物質のすがたとその変化」

授業者　北条中学校　　内藤教諭

（2）研究協議

・各校の取組について報告及び協議

（3）研　修

教科指導講座（家庭科）

1　テーマ

自分の生活を見つめ、気づき、実践できる子の育成

2　講　師

元小野市立中学校主幹教諭　　井岡　徳子

3　内　容

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた題材構想

（1）「整理・整とんで快適に」（５年生）

（2）「クリーン大作戦」（６年生）

教科指導講座（英語）

1　テーマ

公開授業と研究協議

2　講　師

姫路獨協大学　名誉教授　　若林　節子

3　内　容

（1）公開授業「単元　Lesson２　Get Plus２」

授業者　善防中学校　　飯尾教諭

（2）研究協議

・授業について

・講師講演「読み方・書き方、英文の構成、論の構築の仕方について」

教科指導講座（算数・数学）（１）

１　テーマ

ＩＣＴを活用した授業づくり

２　講　師

兵庫教育大学大学院

准教授　　川内　充延

３　内　容

（１）公開授業「文字の式」（関係を表す式）

授業者　北条中学校　　越川教諭

（２）研究協議

・数学科研究

・研修テーマに係る各校の取組について報告及び協議

（３）研　修

・ICT を活用した授業づくりについて

教科指導講座（算数・数学）（２）

１　テーマ

対話的に学び　考えを深めあう

算数の授業づくり

２　講　師

兵庫教育大学　教授　　加藤　久恵

３　内　容

（１）公開授業　「割合」

授業者　富合小学校　　髙嶋教諭

（２）研究協議

・対話的な学びのある授業づくりについて

（３）研　修

道徳授業実践講座（１）

１　テーマ

道徳的価値と教材分析シートの活用

２　講　師

元神戸市立中学校長　　行本　美千子

３　内　容

（１）公開授業

「はしのうえのおおかみ」

授業者　富合小学校　　沼澤教諭

（２）研究協議

（３）研　修

・道徳的価値について

・教材分析シートの活用

道徳授業実践講座（２）

１　テーマ

道徳授業公開と行本先生による事後指導

２　講　師

元神戸市立中学校長　　行本　美千子

３　内　容

（１）公開授業「スダチの苗木」

授業者　泉中学校　　伊藤主幹教諭

（２）事後指導

・教材の読み

・話の展開と道徳上の展開の構図化

・公開授業を振り返って

教師力向上研修講座（１）

１　テーマ

学級の集団づくり・人間関係づくりと
社会心理学

２　講　師

兵庫教育大学大学院　教授　　山中　一英

３　内　容

（１）「集団」の定義と学級の組織化

・「集団」とは何か

・「集団」であることは児童・生徒に何をもたらしているのか

（２）児童・生徒理解のための視点

・社会構成主義

・学級の課題構成

教師力向上研修講座（２）

１　テーマ

ものごとをややこしくしているのは教師自身である
～本質にせまる教師の姿勢や考え方～

２　講　師

加西市教育委員会　総合教育センター
所長　　工藤　憲人

３　内　容

（１）教育とは生き方の教育である

（２）学級経営、生徒指導

（３）自身の生き様からしか指導はできない

教師力向上研修講座（３）

１　テーマ

今さら聞けないＯＪＴ研修

２　講　師

加西市教育委員会　総合教育センター
所長　　工藤　憲人

３　内　容

教育とは「生き方の教育」
この社会でちゃんとやっていく力をつける

・生徒指導

・学級経営

・特別支援教育

・保護者対応

・仕事力ＵＰ

プログラミング教育研修講座

１　テーマ

プログラミング教育の実践事例と今後の展開

２　講　師

兵庫教育大学大学院　教授　　森山　潤

３　内　容

（１）プログラミング教育の考え方の復習

（２）Scratch 演習（正多角形・双方向通信）

（３）KOOV 演習（扇風機の省エネを考えよう）

ＩＣＴ活用による授業改善講座（２）

１　テーマ

ロイロで授業改善

～シンキングツールと共有ノート～

２　講　師

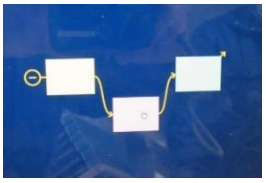
（株）ロイロ　　鍵本　優紀

３　内　容

（１）シンキングツールの活用

（２）共有ノート機能を活用した協働学習

（３）両機能を活用した授業改善事例について



ＩＣＴ活用による授業改善講座（３）

１　テーマ

ＩＣＴ支援員による授業改善事例模擬授業

２　講　師

ＩＣＴ支援員

３　内　容

（１）ロイロノートで協働学習

（２）ビスケットでプログラミング学習

（３）ジャムボードで数学問題の協働学習

特別支援教育研修講座（１）

１　テーマ

社会的自立に繋がる適切な実態把握や支援のあり方

２　講　師

関西国際大学　教授　　中尾　繁樹

３　内　容

（１）校・園におけるリスクマネジメントの意義

（２）みんなの特別支援教育とは

（３）可視化による課題の整理

（４）すべての教師が取り組む自立活動

特別支援教育研修講座（２）

１　テーマ

ＧＩＧＡスクール構想における

ＩＣＴ機器（タブレットＰＣ）の活用

２　講　師

ＮＰＯ法人支援機器普及促進協会

理事長　　高松　崇

３　内　容

（１）タブレット端末

（２）個別最適化された学び

（３）ｉＰａｄ、ＶＯＣＡ

児童生徒支援講座（１）

１　テーマ

子どもの特性に応じた支援・指導

２　講　師

発達支援アドバイザー　　石堂　裕子

３　内　容

（１）支援を要する児童生徒

（２）こども理解とアセスメント（実態把握）

（３）支援を要する児童生徒への対応

（４）二次障害

（５）合理的配慮

児童生徒支援講座（２）

１　テーマ

小学生から中学生にかけての心の発達と

そのつまずき事例について

２　講　師

臨床心理士　　吉村　友子

３　内　容

（１）事例から発達を理解する

（２）事例検討（ケースカンファレンス）

先生ができる対応の可能性

・事例①　困った保護者

・事例②　リストカット

児童生徒支援講座（３）

１　テーマ

スクールソーシャルワーカーの効果的な

活用のために

２　講　師

スクールソーシャルワーカー

原田　かな江　　友井　佐保里

３　内　容

（１）スクールソーシャルワーカーとは

（２）スクールカウンセラーとの違い

（３）スクールソーシャルワーカーの活用

（４）事例研究

幼児教育研修講座

１　テーマ

連携から接続へ、そして架け橋へ

２　講　師

鳴門教育大学　教授　　木下　光二

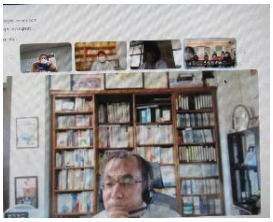
３　内　容

（１）保育･教育の質･カリキュラムマネジメント

（２）記録と発信の重要性

・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

・自発的な活動としての遊び



加西ＳＴＥAM教育研修講座（１）

１　テーマ

デザイン思考で拓く加西ＳＴＥAM

２　講　師

兵庫教育大学大学院　教授

森山　潤　　永田　智子

３　内　容

（１）日本におけるＳＴＥAM教育の議論

（２）ＳＴＥAM教育の展開例

（３）加西ＳＴＥAMにむけて

（４）ワークショップ

加西ＳＴＥAM教育研修講座（３）

１　テーマ

ＳＴＥAM的な切り口でＩＴリテラシーについて学ぶ

２　講　師

一般社団法人　Ｓ－ｎｅｔサポーターズ

代表理事　　吉田　理子

３　内　容

（１）公開授業　「知らない間の出来事」

富田小学校　５年道徳

（２）研　修

データ収集と検証の Science の実践を通してＩＴリテラシーについて学ぶ

加西ＳＴＥAM教育研修講座（２）

１　テーマ

３Ｃ人材育成を目指す授業の実践

２　講　師

東京都東久留米市立南小学校

教諭　　小泉　志信

３　内　容

（１）公開授業　泉小学校　５年社会

（２）研　修

～探究学習と教員の在り方～

・知識を土台にどうやって遊び場を用意するか

・教員に求められる役割は

・探究できる武器を持たせる

道徳授業実践講座特別編

１　テーマ

校内研修とコラボ　授業参観/事後研修・講話

２　講　師

元関西学院大学教授　　横山　利弘

３　内　容

（１）公開授業「天井の穴」

授業者　泉中学校　　山本教諭

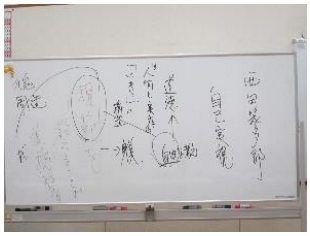
（２）事後研修・講話

・考え議論する道徳とは

・心理を読む授業、生き方を問う授業

・規範と自由がぶつかるところに道徳がある

→自己実現（西田幾太郎）



令和４年度

インターネットトラブルから子どもを守るために

加西市立総合教育センター

生活の中に定着したインターネットですが、
使い方を間違えると、依存症・トラブルになったり、
犯罪の被害者にも加害者にもなってしまう可能性が・・・

☆SNSによるトラブル

・軽い気持ちの投稿
・個人が特定できる写真、動画の投稿
・「なりすまし」の増加
・校内盗撮、合成写真の拡散
・SNS上で知り合った人と出会い、トラブルに
・保護者の投稿でも・・・

☆オンラインゲームによるトラブル

・長時間の使用
・違法行為アカウントとの接触による金品授受
・ゲーム内での金銭やギフトの強要

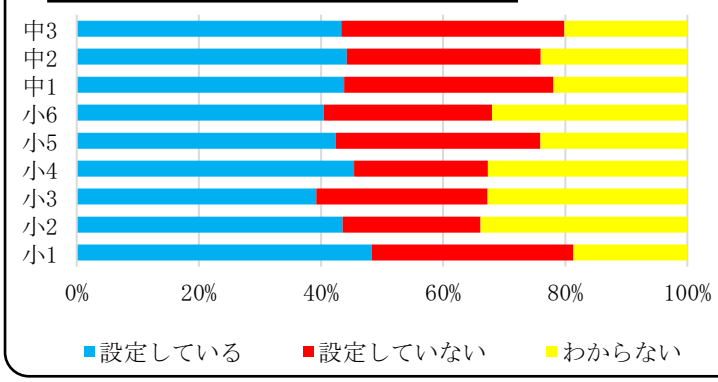
これらのトラブルにより、子どもが・・・

・被害者にも、加害者にもなることが（侮辱罪、児童ポルノ、暴言、脅迫、薬物等）
・ストーカー・誘拐・性犯罪の被害
・心・体調にも変化が（睡眠不足、耳鳴り、家庭内暴力、ひきこもり等）
・家出、金銭トラブル、進学・就職にも影響が・・・

加西っ子のインターネット端末の使用状況と家庭で気をつけること

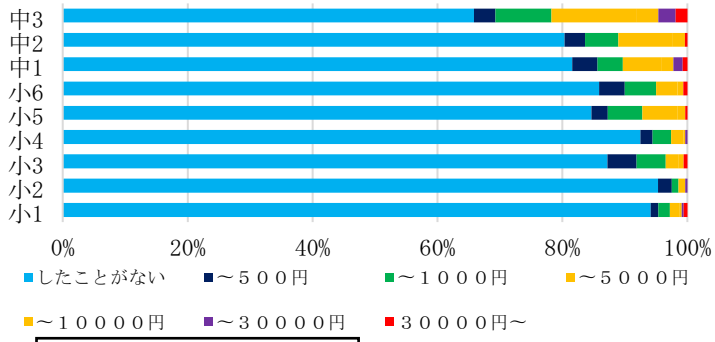
（令和4年度加西市小・中学生インターネット等の使用に関するアンケート結果より）

フィルタリングや見守り設定の有無

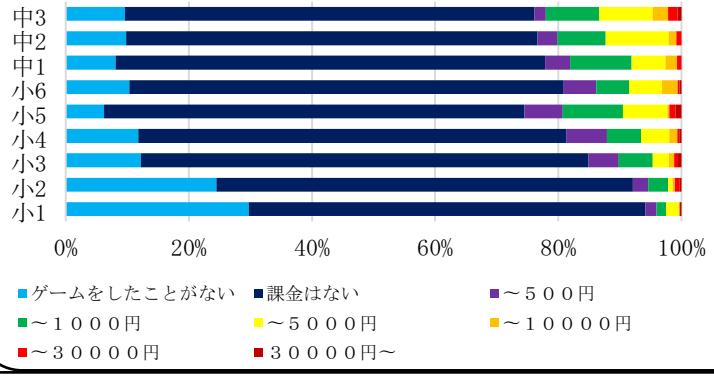


○スマートフォンのフィルタリングの設定は保護者の責任です。（契約時の同意書にあります）
○パソコンやタブレットもトラブル防止のためフィルタリング設定をする。
○ゲーム機の見守り設定をすることで、課金や使用時間の制限ができます。
○ＳＮＳアプリのほとんどは年齢制限があり、子どもが使用してトラブル発生の場合、保護者の責任が問われます。

ネットショッピングで1か月に使った金額



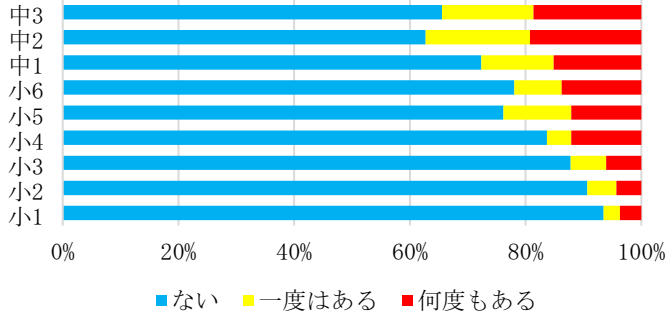
ゲームでの1か月の課金



○買い与えた覚えのないものを、子どもが持っていませんか。
○保護者に覚えのない引き落としがされていませんか。
○ご家庭の大切なカード類はきちんと管理できていますか。
○子どもの小遣いはきちんと管理できていますか。
○オンラインゲームやSNSでギフトを要求したり、されたりしていませんか。

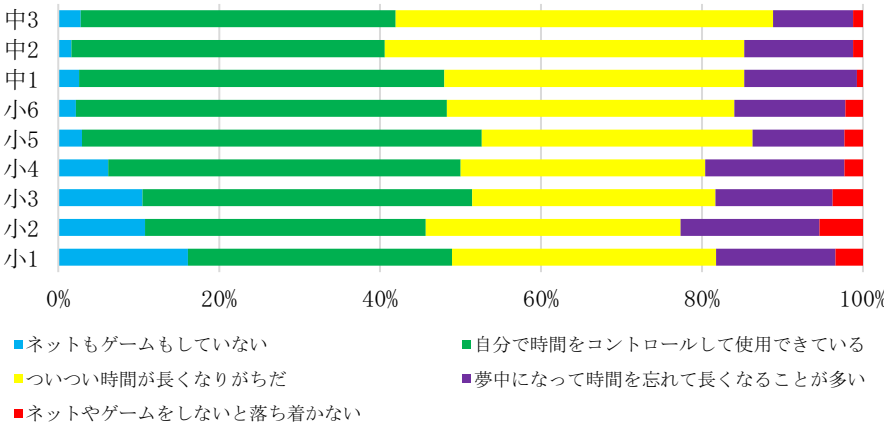
※ギフト･･･オンラインゲーム内で、有料のアイテムやポイントを相手に送ること。

知らない人とのＳＮＳ等のやりとり経験



○子どもがSNSなどで誰とどんなやり取りをしているか把握していますか。
○SNSで悩み相談にのってくれた相手を信用して会いに行き、家に連れ込まれる、オンラインゲームで知り合った相手に裸の画像を要求される等のトラブルが発生しています。
○子どものスマートフォンやゲーム機の利用方法や利用時間について興味･関心を持ち、知らない人とやり取りしている場合は注意が必要です。

ネット・ゲームの使用時間で当てはまる状態



○家庭で決めたきまりや約束を守ってインターネットやゲームをする習慣をつけさせましょう。
○子どもがインターネットやゲームに時間を費やし、やるべきことを放り出していませんか。
○家庭で会話の時間を大切にしていますか。
○ネット依存傾向にある子どもは、トラブル等に巻き込まれる恐れが高いことが分かっています。

【保護者の使用もご注意を!!】

我が子の成長を喜んでSNSに写真等をアップしているかもしれませんが…　その投稿…

○個人や住所、学校名が特定されませんか。
○映り込んでいる中に、他人の個人情報は含まれていませんか。

保護者がSNSにアップした写真等が悪用された事案

☆我が子の水着姿や裸の写真が児童ポルノやアダルトサイトに悪用された。
☆いわれのない誹謗中傷･ストーカーや連れ去りの被害のきっかけになった。

子どもが安全に安心してインターネットを利用できるように家庭ができること

① 家族できちんと話し合って約束やきまりを決めましょう。

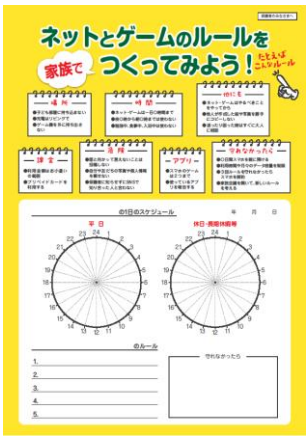
スマートフォンやタブレット等の購入後3か月以内で8割の子が何らかのトラブルに巻き込まれるというデータもあります。購入前に約束やきまりを話し合って決めておくことが大切です。

ネットとゲームのつきあい方・ルールづくり　3つのポイント

1 家族で話し合う
必ず子どもと保護者で話し合い、お互いに納得したルールを作りましょう。

2 定期的に見直す
子どもを取り巻く環境の変化に応じて、定期的にルールを見直しましょう。

3 制限できるツールを活用する
危険なサイトやアプリをブロックするなど、ネットの利用時間制限できる「ペアレンタルコントロール」を上手に活用しましょう。



※下記URLより、ワークシートはダウンロード

兵庫県HP「話し合ってみよう！ネットとゲームのルールづくり」より　https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk16/net_rule_point.html

②スマホやタブレットにはフィルタリング、ゲーム機には見守り設定等の利用制限を購入時にしましょう。

子どもが勝手に課金や買い物ができない設定を紹介します。保護者のスマートフォンから利用制限できます。

スマートフォンの場合

設定するためには
購入時に店舗でフィルタリング設定をすること。
※購入後にフィルタリングを設定したい場合は購入店にお問い合わせください。

フィルタリングで保護者が制限できること

○有害サイトへのアクセスを自動的にブロック
○アプリ等での購入の制限
○アプリ等でのダウンロードの制限
○使用時間の制限　　等々

ゲーム機の場合

ペアレンタルコントロール（保護者の見守り設定）でできること
○購入制限・課金の制限　　○プレイ時間の制限
○他プレーヤーとのコミュニケーションの制限（チャット等）
○プレイ及びダウンロード可能なゲームの制限　　等々
※ゲーム機からも設定できますし、スマホ等のアプリからも設定できます。

※詳細については、使用端末やゲームのホームページ等でご確認ください。

兵庫県警察
「インターネットのお約束」より

困ったときは、一人で悩まず、
すぐ相談！

（画像提供：兵庫県警察本部サイバー犯罪対策課）

青少年愛護条例に定められている保護者の義務
○青少年のインターネットの適切な利用（第２４条の２）
○青少年のスマートフォン・携帯電話の契約の際のフィルタリングの利用と有効化措置を原則義務化（第２４条の４）

「このスマホは私(親)が買いました。あなたに貸しているものです。」（「スマホ18の約束」より）
買い与えるのではなく、保護者が買って貸しているのだという意識を子どもにも持たせましょう。
持たせた以上、保護者が責任を持って管理することが何より大切です。

もし、インターネット等のやりとりで困ったことやトラブルになったら…
お子様からインターネットのこと（不適切な書き込み、トラブル、いじめ等）で相談を受けられ、対応が難しいと判断された場合は、迷わず下記へご相談ください。

相　談　先	電　話　番　号
兵庫県警察本部サイバー犯罪対策課	078-341-7441（代表）
兵庫県警察本部　少年相談室(ヤングトーク)	0120-786-109(平日９時～17時半)
ひょうごっ子悩み相談センター	0120-0-78310(24時間)
県精神保健福祉センター こころの健康電話相談専用ダイヤル	078-252-4987 (火～土　9:30～11:30、13:00～15:30)
ほっとらいん相談(青少年のための総合相談)	078-977-7555 (月・火・水・金・土　10:00～12:00、13:00～16:00)
加東こども家庭センター	0795-27-8250
消費生活センター(※課金のことで困ったら)	0790-42-8739(平日９時～16時半)
加西市立総合教育センター相談窓口	0790-42-3730(平日９時～17時)

加西市立総合教育センター　年報　第12号

発　行　日　令和５年３月３１日
発　　行　加西市立総合教育センター
発行責任者　所長　工藤　憲人

所　在　地　〒675-2303 加西市北条町古坂 1173 番地 14
電　　話　0790-42-3723
Ｆ　Ａ　Ｘ　0790-42-4221
Ｗ　Ｅ　Ｂ　https://www.city.kasai.hyogo.jp/site/edc/